

II 知的障害者調査

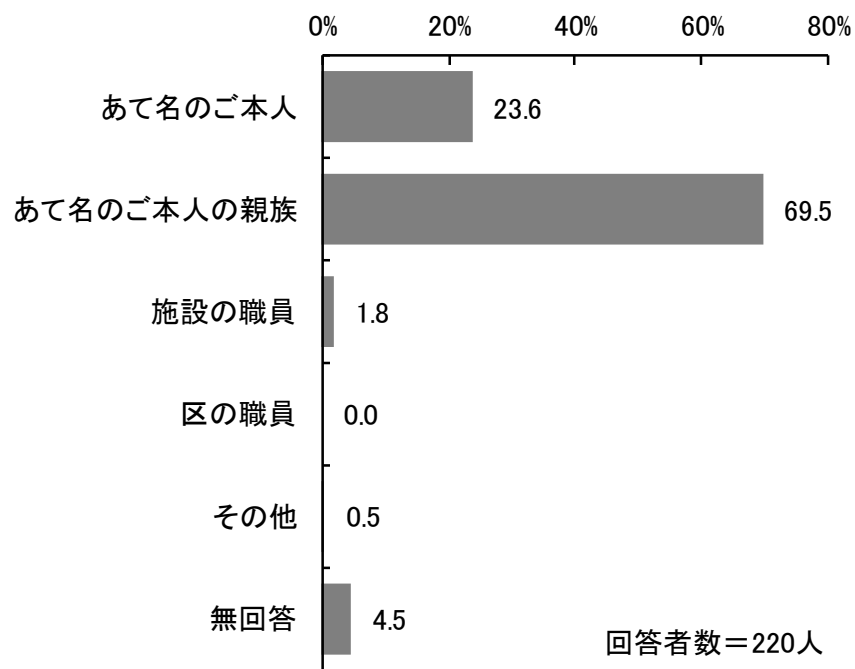
1. 調査票記入者について

(1) 調査票記入者

問1 この調査票に記入される方はどなたですか。(〇は1つだけ)

調査票記入者は、「あて名のご本人の親族」が69.5%で最も高く、次いで「あて名のご本人」23.6%、「施設の職員」1.8%となっている。

図表 II-1 調査票記入者



2. 調査対象者について

(1) ご本人の性別と年齢

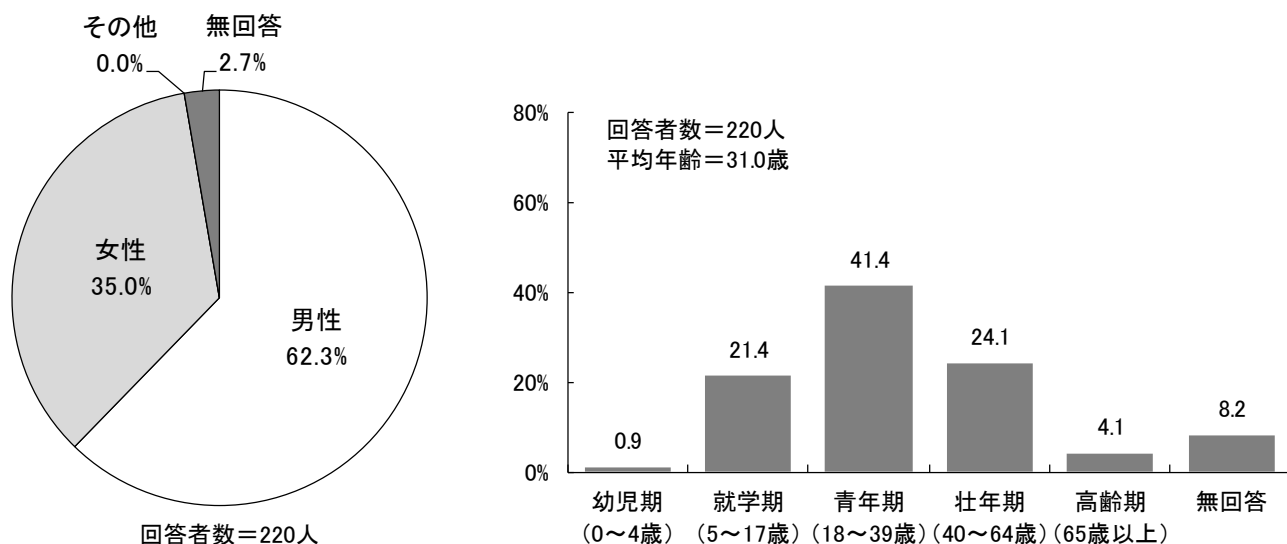
問2 あなたの性別と年齢をお答えください。(令和4年8月1日現在)

性別は、「男性」が62.3%、「女性」が35.0%となっている。

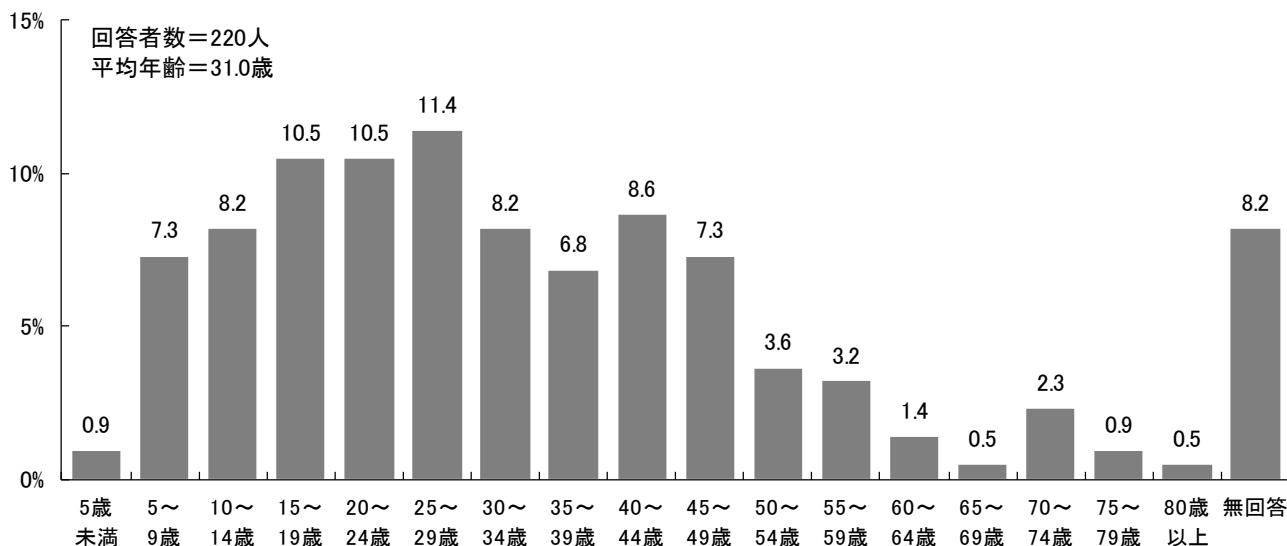
年齢は、「青年期(18～39歳)」が41.4%で最も高く、次いで「壮年期(40～64歳)」24.1%、「就学期(5～17歳)」21.4%となっている。

平均年齢は31.0歳である。

図表 II-2 ご本人の性別と年齢



図表 II-3 ご本人の年齢 (5歳きざみ)

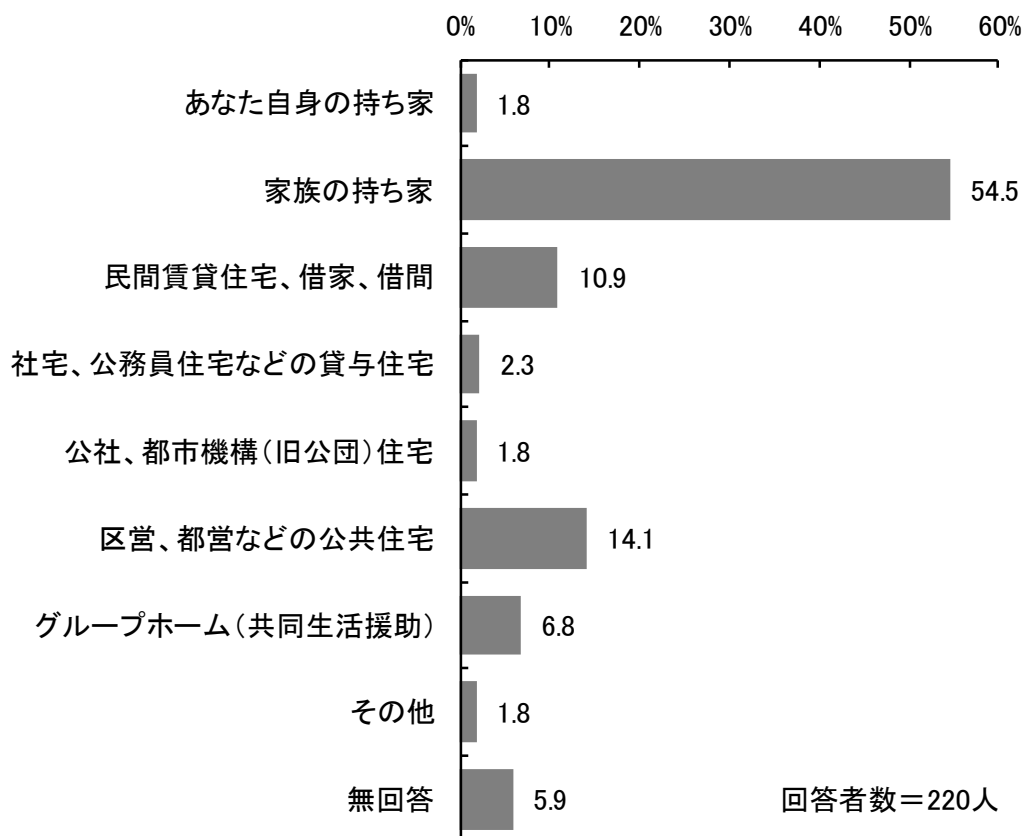


(2) 住居形態

問3 あなたのお住まいの種類は次のどれですか。(○は1つだけ)

住居形態は、「家族の持ち家」が54.5%で半数以上を占め、次いで「区営、都営などの公共住宅」14.1%、「民間賃貸住宅、借家、借間」10.9%となっている。

図表 II-4 住居形態



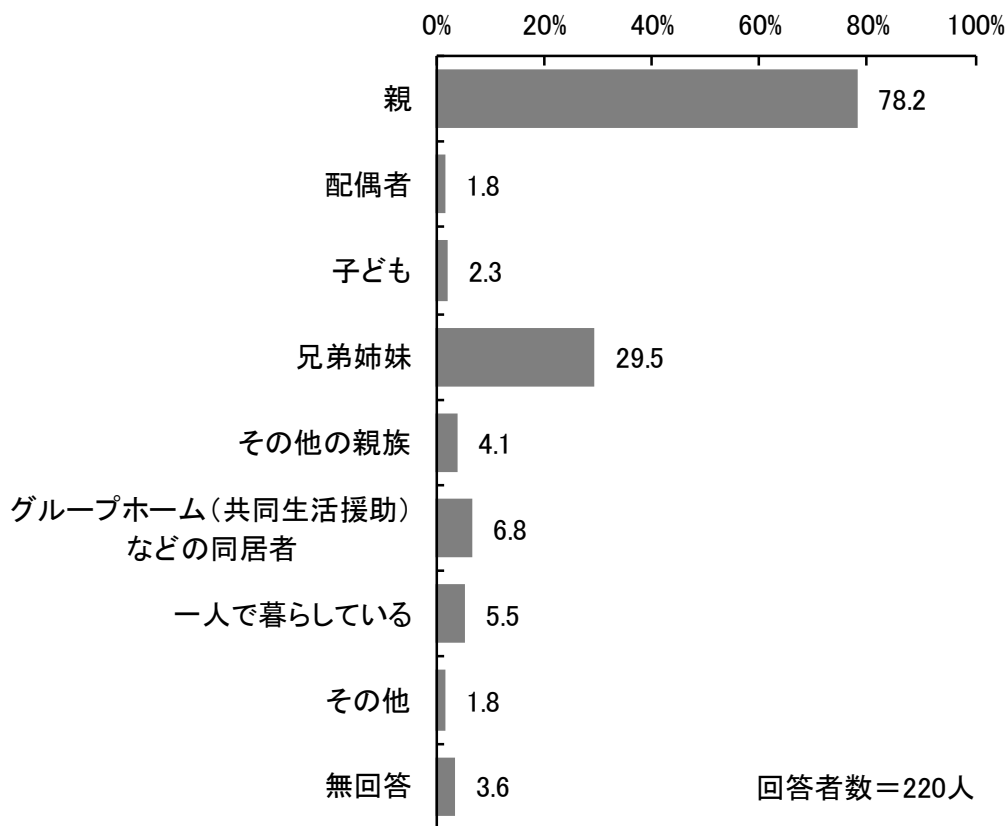
(3) 同居家族

問4 あなたは現在どなたと一緒に暮らしていますか。(〇はあてはまるものすべて)

同居家族は、『なんらかの家族・親族と暮らしている方』が82.3%となっている。そのうち、最も多い同居家族は「親」、次いで「兄弟姉妹」である。

一方、「一人で暮らしている」は5.5%である。

図表 II-5 同居家族



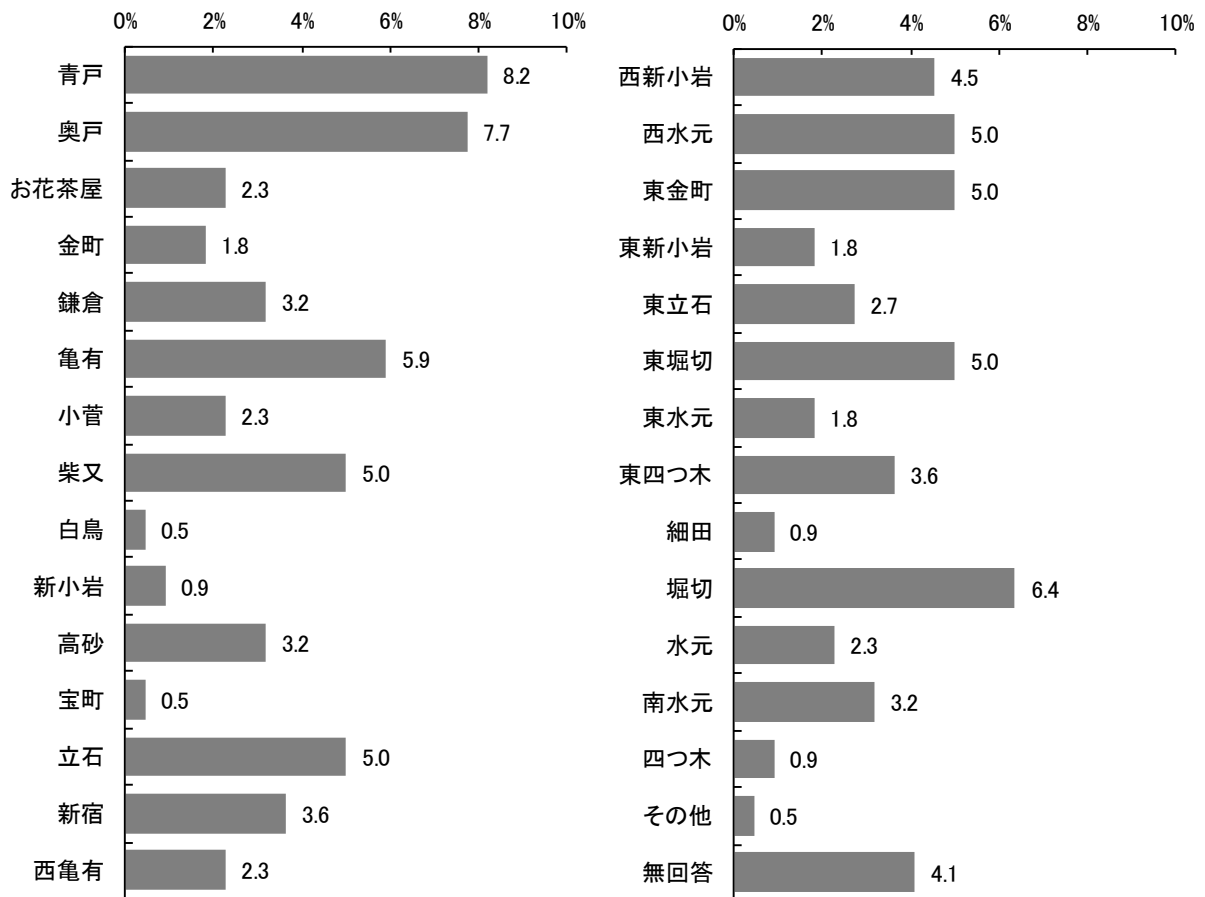
※『なんらかの家族・親族と暮らしている方』=100-(「グループホームなどの同居者」+「一人で暮らしている」+「その他」+無回答)

(4) 居住地域

問5 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(〇は1つだけ)

居住地域は、「青戸」8.2%、「奥戸」7.7%がやや高くなっている。

図表 II-6 居住地域



回答者数=220人

3. 援護者（支援者）について

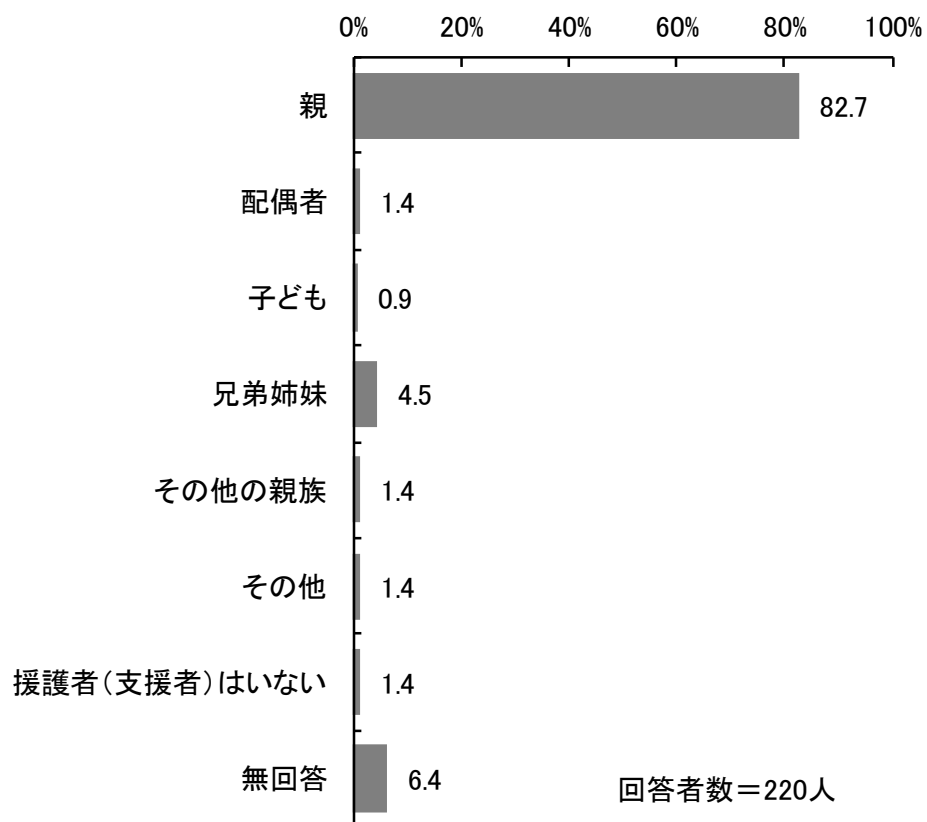
（1）主な援護者（支援者）

問6 あなたの主な援護者（支援者）はどなたですか。（○は1つだけ）

主な援護者（支援者）は、「親」が82.7%で約8割を占めている。次いで「兄弟姉妹」4.5%、「配偶者」1.4%となっている。

一方、「援護者（支援者）はいない」は1.4%である。

図表 II-7 主な援護者（支援者）



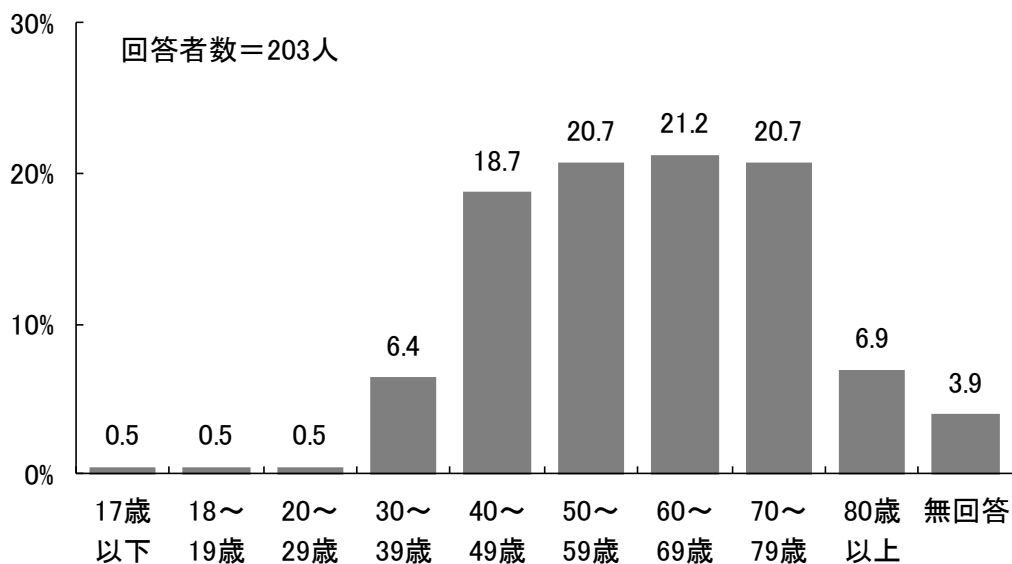
(2) 主な援護者（支援者）の年齢

★ 問6-①は、問6で「1.親」「2.配偶者」「3.子ども」「4.兄弟姉妹」「5.その他の親族」「6.その他」のいずれかに○をした方

問6-① 主な援護者（支援者）の年齢は、おいくつぐらいですか。（○は1つだけ）

主な援護者（支援者）がいると回答した方の主な援護者（支援者）の年齢は、「60～69歳」が21.2%で最も高く、次いで「50～59歳」「70～79歳」がともに20.7%、「40～49歳」18.7%となっている。

図表 II-8 主な援護者（支援者）の年齢



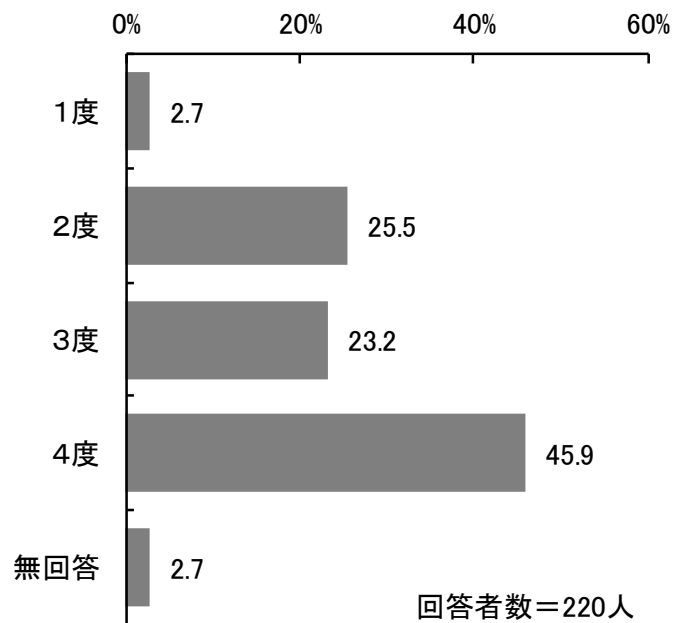
4. 障害の状況について

(1) 愛の手帳に記載されている障害の程度

問7 あなたの愛の手帳に記載されている障害の程度をお答えください。(〇は1つだけ)

愛の手帳に記載されている障害の程度は、「4度」が45.9%で4割を超えている。次いで「2度」25.5%、「3度」23.2%、「1度」2.7%となっている。

図表 II-9 愛の手帳に記載されている障害の程度



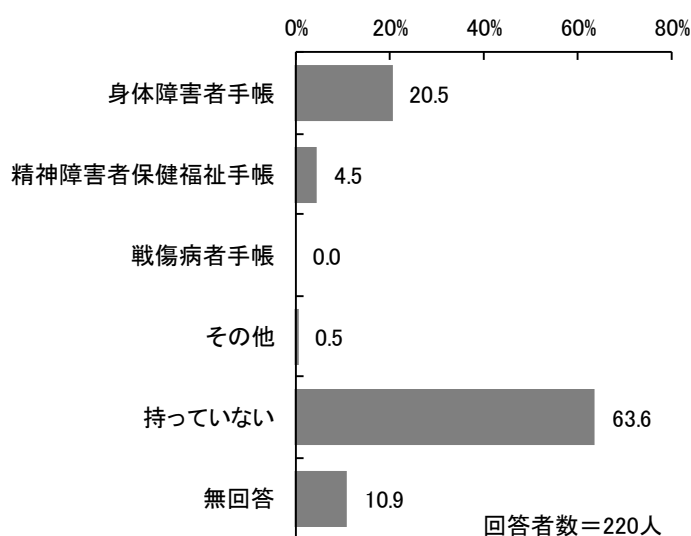
(2) 愛の手帳以外の手帳の所持状況

問8 あなたは愛の手帳以外の手帳をお持ちですか。また、障害の程度を（ ）の中にお書きください。(〇はあてはまるものすべて)

愛の手帳以外の手帳の所持状況は、「身体障害者手帳」が20.5%で最も高く、次いで「精神障害者保健福祉手帳」4.5%となっている。

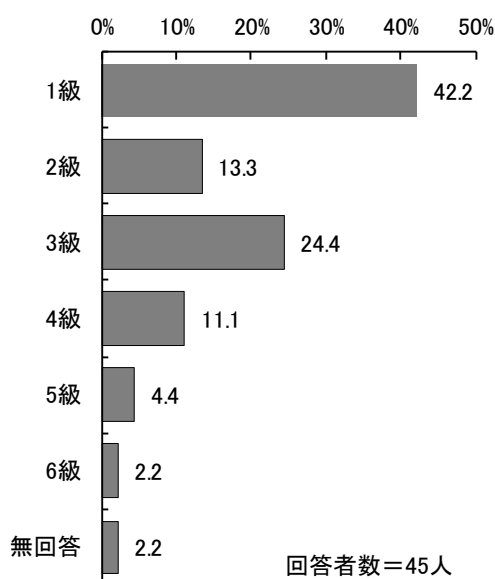
一方、「持っていない」は63.6%である。

図表 II-10 愛の手帳以外の手帳の所持状況



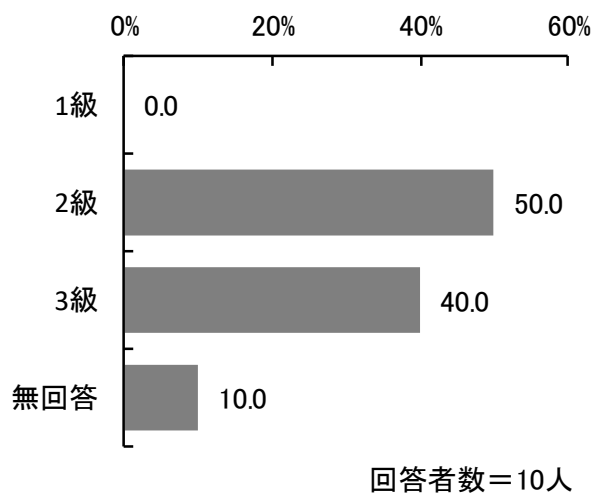
知的障害者で身体障害者手帳を所持している方の身体障害者手帳の程度は、「1級」が42.2%である。次いで「3級」24.4%、「2級」13.3%となっている。

図表 II-11 身体障害者手帳の程度



知的障害者で精神障害者保健福祉手帳を所持している方の精神障害者保健福祉手帳の程度は、「2級」が50.0%と最も高くなっている。

図表 II-12 精神障害者保健福祉手帳の程度



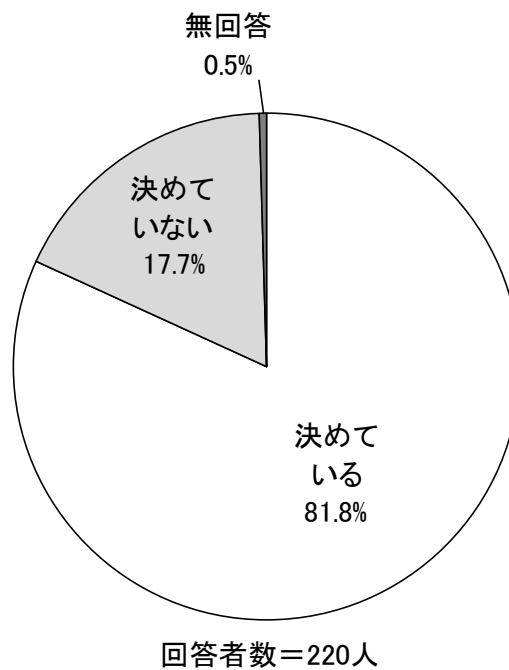
5. 健康管理について

(1) かかりつけの医療機関の有無

問9 かかりつけの医療機関を決めていますか。(○は1つだけ)

かかりつけの医療機関の有無は、「決めている」が81.8%、「決めていない」が17.7%となっている。

図表 II-13 かかりつけの医療機関の有無

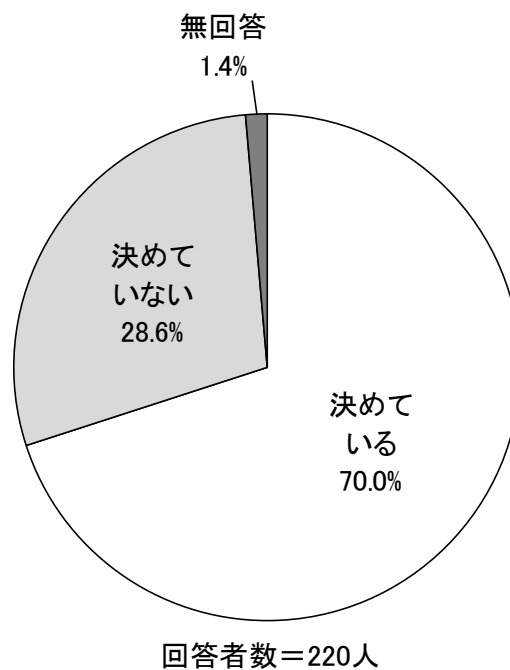


(2) かかりつけの歯科医療機関の有無

問 10 かかりつけの歯科医療機関を決めていますか。(〇は1つだけ)

かかりつけの歯科医療機関の有無は、「決めている」が70.0%、「決めていない」が28.6%となっている。

図表 II-14 かかりつけの歯科医療機関の有無

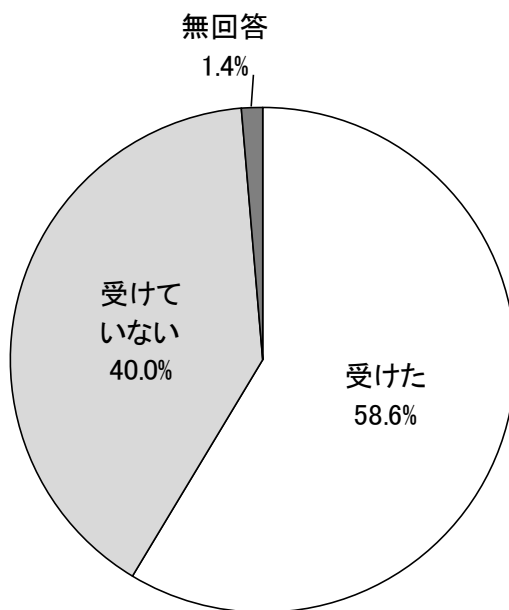


(3) 健康診断の受診状況

問 11 過去1年間に生活習慣病などの健康診断を受けましたか。(〇は1つだけ)

健康診断の受診状況は、「受けた」が 58.6%、「受けていない」が 40.0%となっている。

図表 II-15 健康診断の受診状況



回答者数=220人

年代別にみると、「受けた」は高齢期(65歳以上)の77.8%と壮年期(40~64歳)の73.6%が、他の年代より高くなっている。

図表 II-16 健康診断の受診状況(年代別)

		回答者数 人	受けた	受けていない	無回答
全体		220	58.6	40.0	1.4
年代別	幼児期(0~4歳)	2	50.0	50.0	0.0
	就学期(5~17歳)	47	23.4	74.5	2.1
	青年期(18~39歳)	91	65.9	31.9	2.2
	壮年期(40~64歳)	53	73.6	26.4	0.0
	高齢期(65歳以上)	9	77.8	22.2	0.0

単位：%

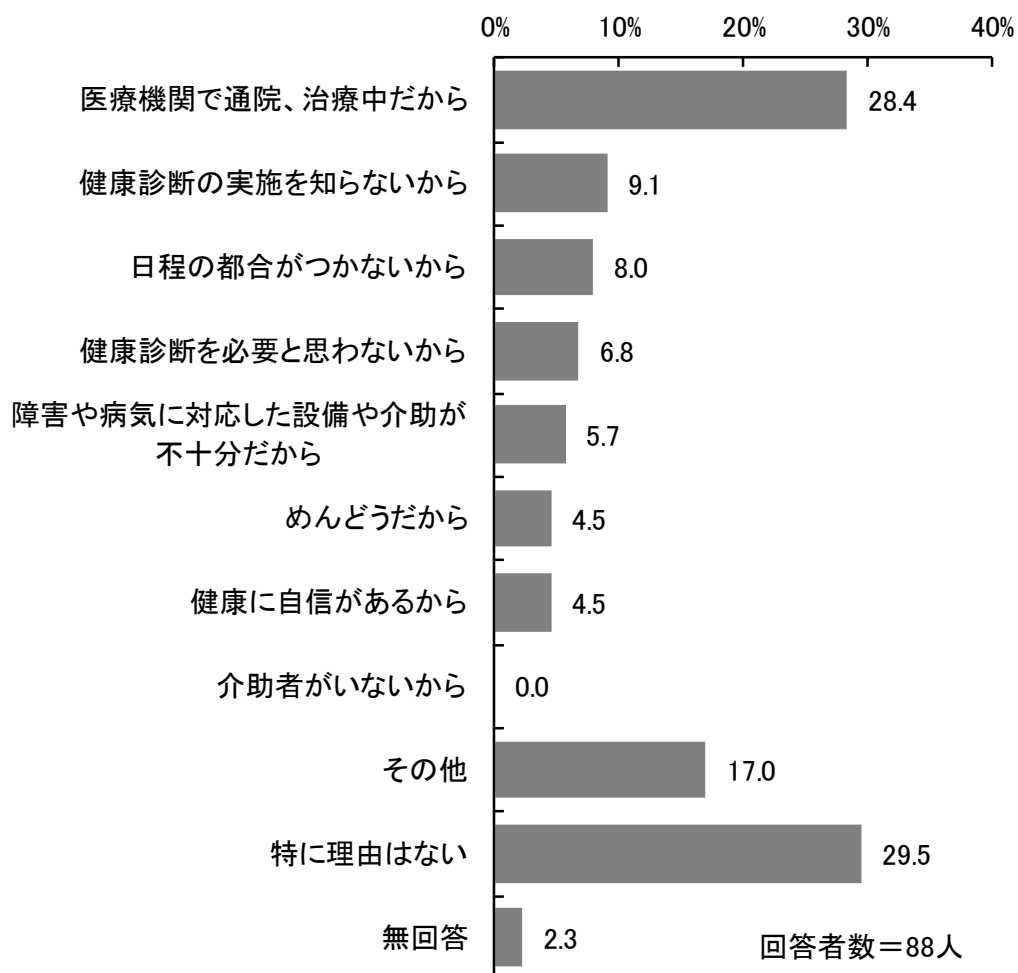
(4) 健康診断を受けていない理由

★ 問 11-①は、問 11 で「2.受けていない」に○をした方
問 11-① 受けていない理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

健康診断を「受けていない」と回答した方の健康診断を受けていない理由は、「医療機関で通院、治療中だから」が 28.4%で最も高く、次いで「健康診断の実施を知らないから」9.1%、「日程の都合がつかないから」8.0%となっている。

一方、「特に理由はない」は 29.5%である。

図表 II-17 健康診断を受けていない理由



(5) 健康や医療についての不安や課題

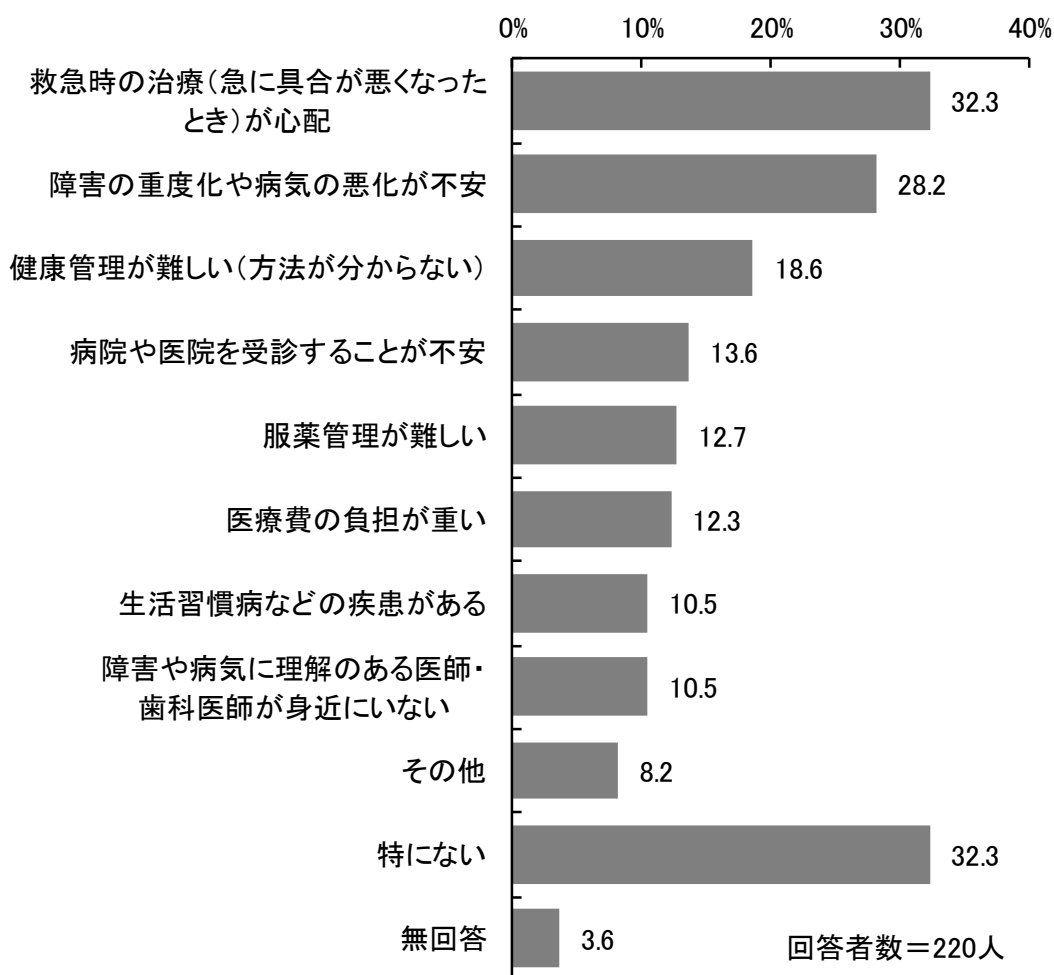
問 12 ご自身の健康や医療について、どのような不安や課題がありますか。

(○はあてはまるものすべて)

健康や医療についての不安や課題は、「救急時の治療（急に具合が悪くなったとき）が心配」が32.3%で最も高く、次いで「障害の重度化や病気の悪化が不安」28.2%、「健康管理が難しい（方法が分からない）」18.6%となっている。

一方、「特にない」は32.3%で約3割である。

図表 II-18 健康や医療についての不安や課題



障害の程度別にみると、「救急時の治療（急に具合が悪くなったとき）が心配」は障害程度が重度なほど割合が高く、1度では66.7%と、他の障害程度より高くなっている。

図表 II-19 健康や医療についての不安や課題（障害の程度別）

		回答者数 人	救急時の治療急に具合が悪 くなるときが心配	障害の重度化や病気の悪化 が不安	健康管理が難しい方法が分 からない	病院や医院を受診すること が不安	服薬管理が難しい	医療費の負担が重い	生活習慣病などの疾患があ る	障害や病気に理解のある医 師 歯科医師が身近にいない	その他	特にな い	無回 答
全 体		220	32.3	28.2	18.6	13.6	12.7	12.3	10.5	10.5	8.2	32.3	3.6
障 害 の 程 度 別	1 度	6	66.7	83.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
	2 度	56	57.1	39.3	28.6	26.8	12.5	3.6	19.6	16.1	14.3	8.9	5.4
	3 度	51	25.5	25.5	17.6	11.8	17.6	15.7	17.6	7.8	9.8	29.4	3.9
	4 度	101	20.8	19.8	13.9	7.9	10.9	13.9	3.0	9.9	4.0	47.5	2.0

単位：%

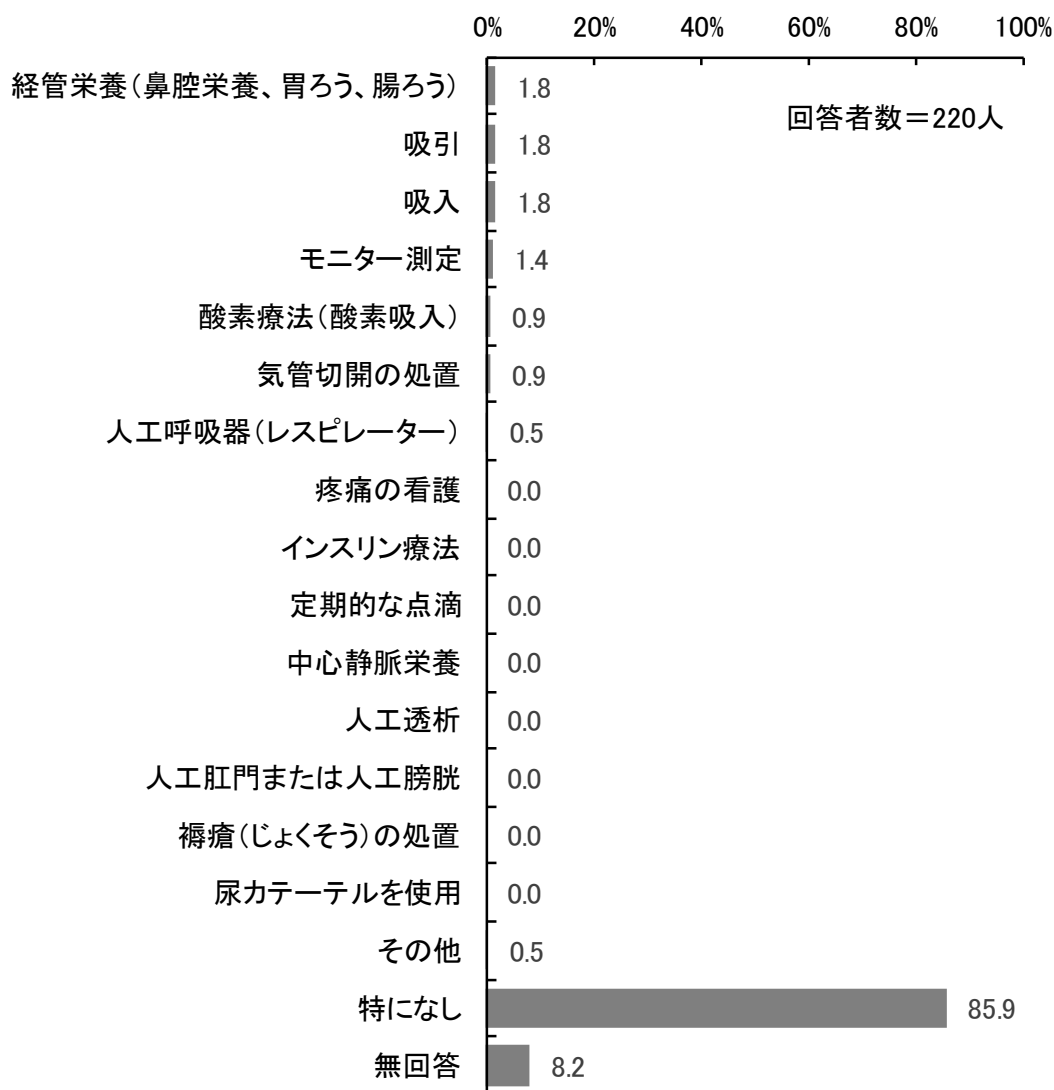
(6) 医療処置や医療的ケアの利用状況

問 13 あなたは、次の医療処置や医療的ケアを受けていますか。

(○はあてはまるものすべて)

医療処置や医療的ケアの利用状況は、『医療的ケアの利用が必要な方』が 5.9%、「特になし」が 85.9%である。利用している方では、「経管栄養（鼻腔栄養、胃ろう、腸ろう）」「吸引」「吸入（ネブライザー装置を用いて気道に薬物や水分を与えることにより、痰などの分泌物を出しやすくする）」がともに 1.8%となっている。

図表 II-20 医療処置や医療的ケアの利用状況



※『医療的ケアの利用が必要な方』=100-（「特になし」+無回答）

※吸入（ネブライザー装置を用いて気道に薬物や水分を与えることにより、痰などの分泌物を出しやすくする）

※モニター測定（血圧、心拍、酸素飽和度など）

(7) 医療処置や医療的ケアを受けながら生活していくうえで必要な支援

★ 問 13-①は、問 13 で「1.」～「16.」のいずれかに○をした方

問 13-① 医療処置や医療的ケアを受けながら生活していくうえで、どのような支援が必要ですか。

以下は、必要な支援についてのご意見やご要望（総数4件）の原文を基に一部要約し全掲載している。

- 看護師による支援。
- 親が体調の悪い時に代わりにやってもらえる人がいないとき。
- 言葉がまだ理解できないため、話せなかったりするので、上手に探っていただきながら治療を受けたい。親の手が少し離れた時が心配。
- 発作時吸入（アドエア）をするが、本人が確実に吸入できているか確認する必要がある。

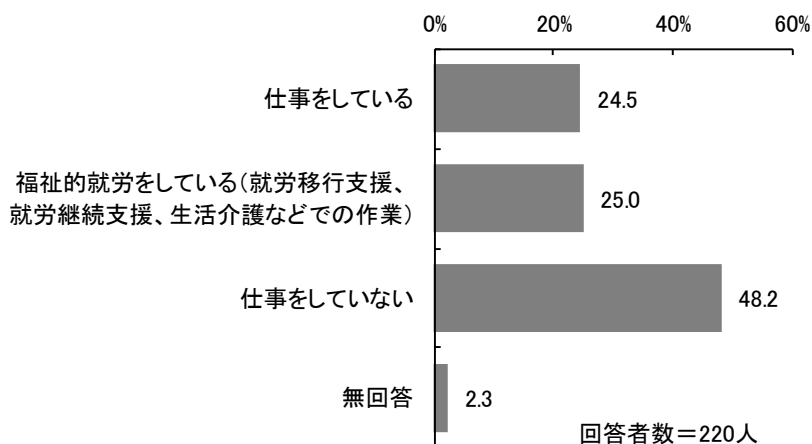
6. 就労状況について

(1) 就労状況

問 14 現在、収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つだけ)

就労状況は、「仕事をしていない」が48.2%で最も高くなっている。次いで「福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援、生活介護などでの作業)」25.0%、「仕事をしています」24.5%、となっている。

図表 II-2 1 就労状況



障害の程度別にみると、すべての障害程度で「仕事をしていない」が第1位となっている。

「福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援、生活介護などでの作業)」は2度の42.9%、「仕事をしています」は4度の42.6%が他の障害程度より高くなっている。

図表 II-2 2 就労状況(障害の程度別)

		回答者数 人	仕事を している	福祉的 就労を している (就労移行 支援 就 労継続支 援 生活 介護など での作業)	仕事を してい ない	無 回 答
全 体		220	24.5	25.0	48.2	2.3
障 害 の 程 度 別	1 度	6	0.0	33.3	66.7	0.0
	2 度	56	1.8	42.9	50.0	5.4
	3 度	51	19.6	31.4	45.1	3.9
	4 度	101	42.6	9.9	47.5	0.0

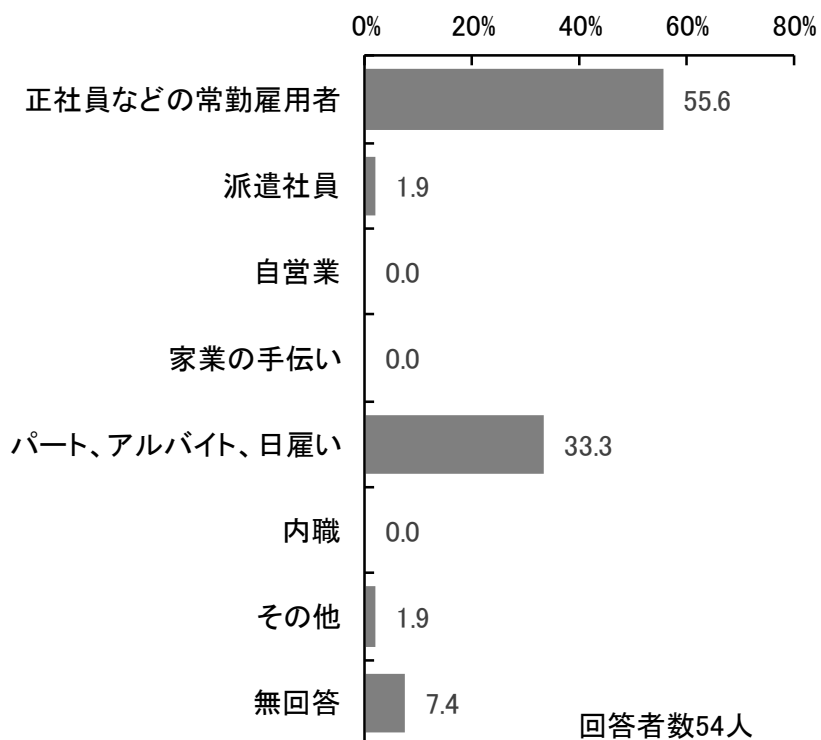
単位：%

(2) 仕事の形態

★ 問 14-①は、問 14 で「1.仕事をしている」に○をした方
問 14-① 雇用の形態は何ですか。(○は1つだけ)

「仕事をしている」と回答した方の仕事の形態は、「正社員などの常勤雇用者」が 55.6% で5割を超えている。次いで「パート、アルバイト、日雇い」33.3%、「派遣社員」1.9%となっている。

図表 II-23 仕事の形態

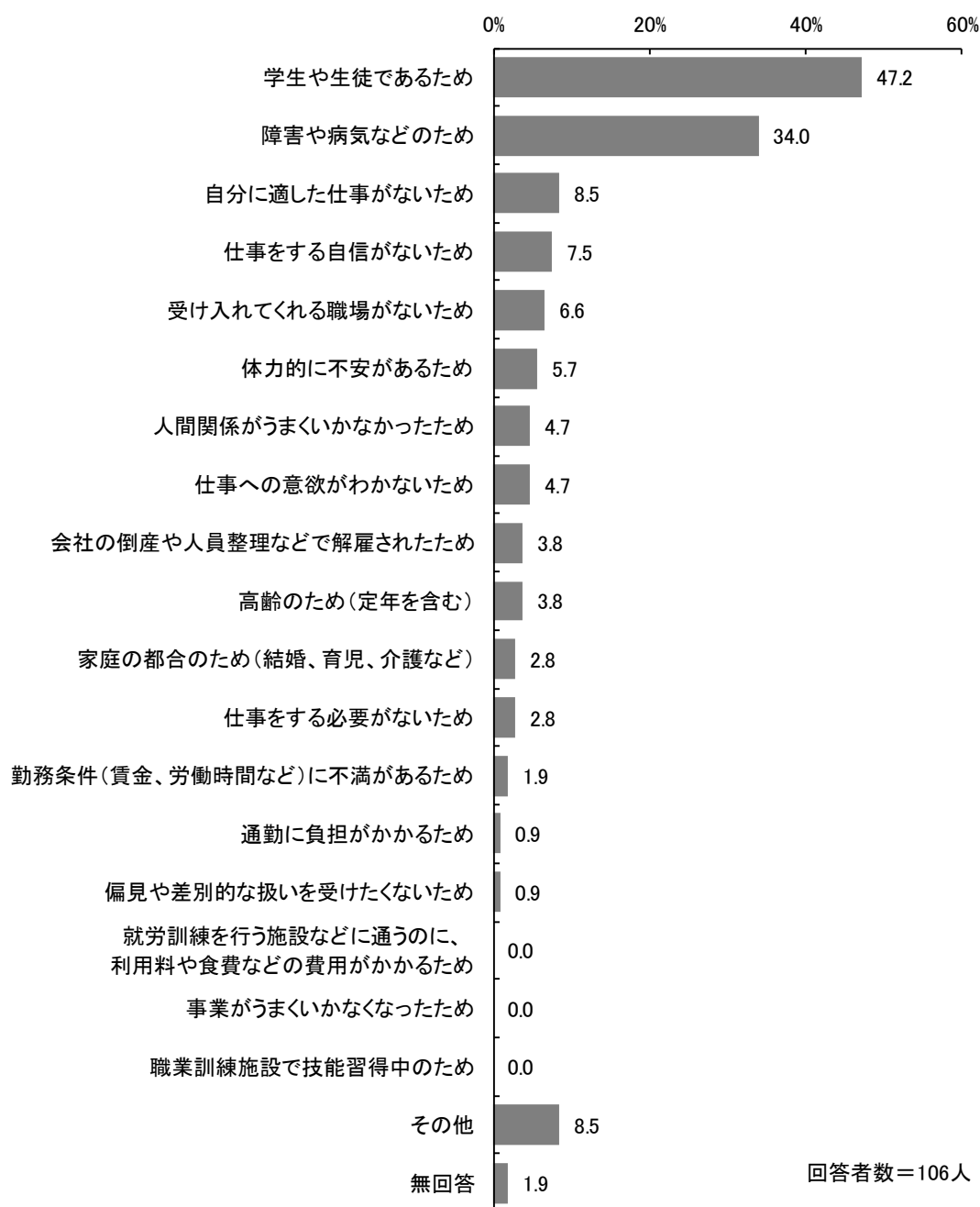


(3) 仕事をしていない理由

★ 問 14-②は、問 14 で「3.仕事をしていない」に○をした方
問 14-② 現在、仕事をしていない理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

「仕事をしていない」と回答した方の仕事をしていない理由は、「学生や生徒であるため」が 47.2%で最も高く、次いで「障害や病気などのため」34.0%となっている。

図表 II-2 4 仕事をしていない理由

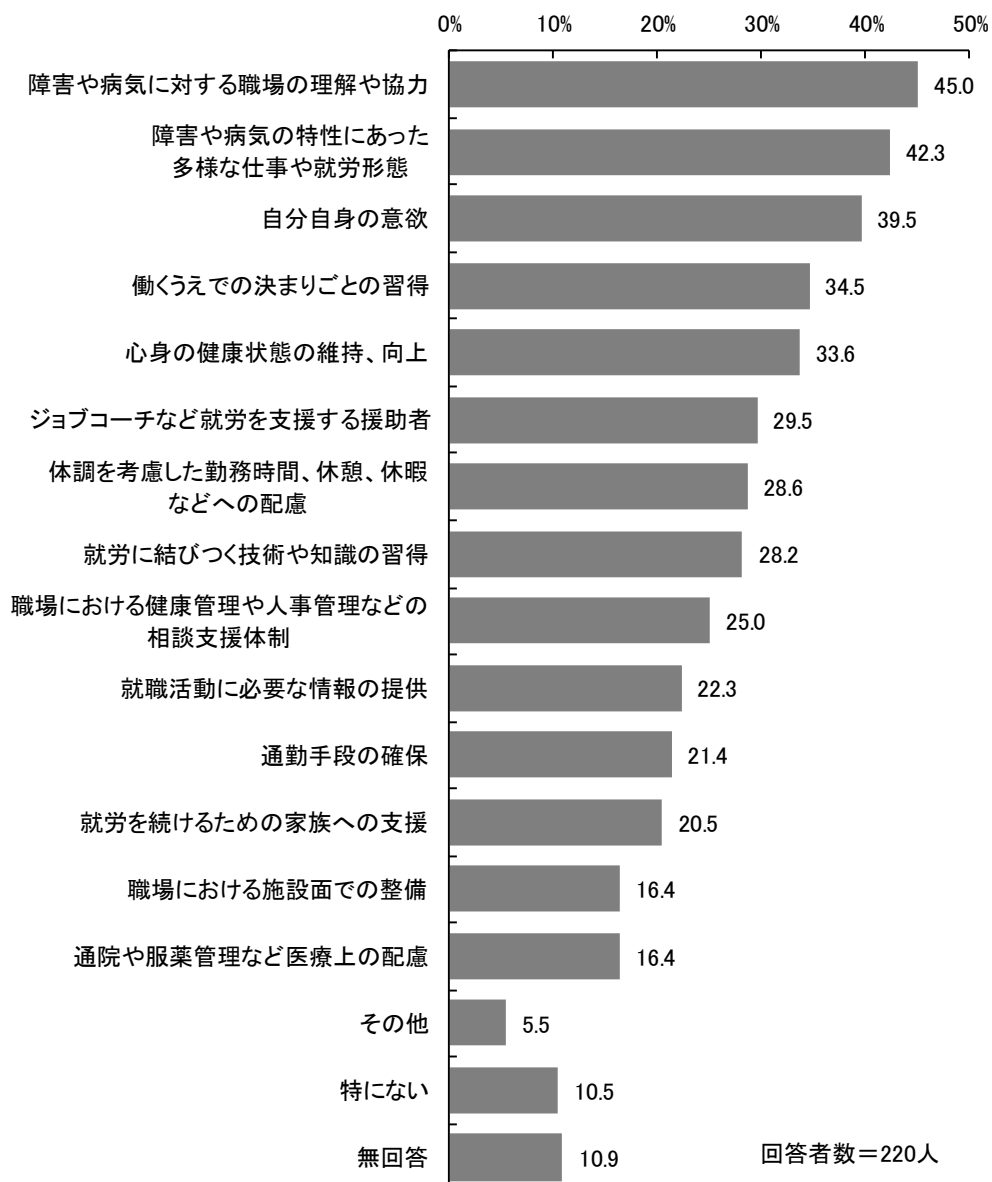


(4) 仕事をする（していく）ために必要なこと

問 15 仕事をする（していく）ために必要なことは何ですか。（○はあてはまるものすべて）

仕事をする（していく）ために必要なことは、「障害や病気に対する職場の理解や協力」が45.0%で最も高く、次いで「障害や病気の特性にあった多様な仕事や就労形態」42.3%、「自分自身の意欲」39.5%となっている。

図表 II-25 仕事をする（していく）ために必要なこと



*ジョブコーチとは、障害のある方と一緒に職場に入り、障害のある方が一人で仕事ができるようになるまでの手助けや障害のある方と事業者との間の調整などを行う指導者のこと。

年代別にみると、就学期（5～17歳）では「障害や病気の特性にあった多様な仕事や就労形態」「就労に結びつく技術や知識の習得」、青年期（18～39歳）では「障害や病気に対する職場の理解や協力」の割合が高くなっている。

図表 II-26 仕事をする（していく）ために必要なこと（障害の程度別/年代別）

		回答者数人	障害や病気に対する職場の理解や協力	障害や病気の特性にあった多様な仕事や就労形態	自分自身の意欲	働くうえでの決まりごとの習得	心身の健康状態の維持向上	支援する援助者	ジョブコーチなど就労を支援する者	体調を考慮した勤務時間 休憩・休暇などの配慮	就労に結びつく技術や知識の習得	職場における健康管理や人事管理などの相談支援体制
全体		220	45.0	42.3	39.5	34.5	33.6	29.5	28.6	28.2	25.0	
障害の程度別	1度	6	50.0	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	
	2度	56	39.3	39.3	30.4	16.1	33.9	28.6	23.2	14.3	21.4	
	3度	51	47.1	39.2	33.3	39.2	31.4	31.4	23.5	29.4	19.6	
	4度	101	46.5	44.6	48.5	44.6	36.6	30.7	33.7	36.6	29.7	
年代別	幼児期（0～4歳）	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
	就学期（5～17歳）	47	63.8	68.1	53.2	61.7	38.3	57.4	38.3	68.1	31.9	
	青年期（18～39歳）	91	52.7	46.2	48.4	40.7	38.5	29.7	36.3	22.0	30.8	
	壮年期（40～64歳）	53	28.3	24.5	22.6	13.2	26.4	11.3	17.0	15.1	15.1	
	高齢期（65歳以上）	9	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	

		回答者数人	就職活動に必要な情報提供	通勤手段の確保	就労を続けるための家族の支援	職場における施設面での整備	通院や服薬管理など医療上の配慮	その他	特になし	無回答
全体		220	22.3	21.4	20.5	16.4	16.4	5.5	10.5	10.9
障害の程度別	1度	6	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	2度	56	8.9	19.6	19.6	23.2	17.9	3.6	8.9	23.2
	3度	51	17.6	17.6	21.6	9.8	13.7	5.9	2.0	15.7
	4度	101	33.7	22.8	20.8	15.8	17.8	5.0	15.8	2.0
年代別	幼児期（0～4歳）	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0
	就学期（5～17歳）	47	55.3	40.4	29.8	27.7	25.5	10.6	6.4	4.3
	青年期（18～39歳）	91	20.9	23.1	26.4	19.8	16.5	4.4	4.4	5.5
	壮年期（40～64歳）	53	3.8	9.4	9.4	3.8	13.2	3.8	13.2	18.9
	高齢期（65歳以上）	9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	22.2

単位：%

7. 経済基盤について

(1) 令和3年中の収入源

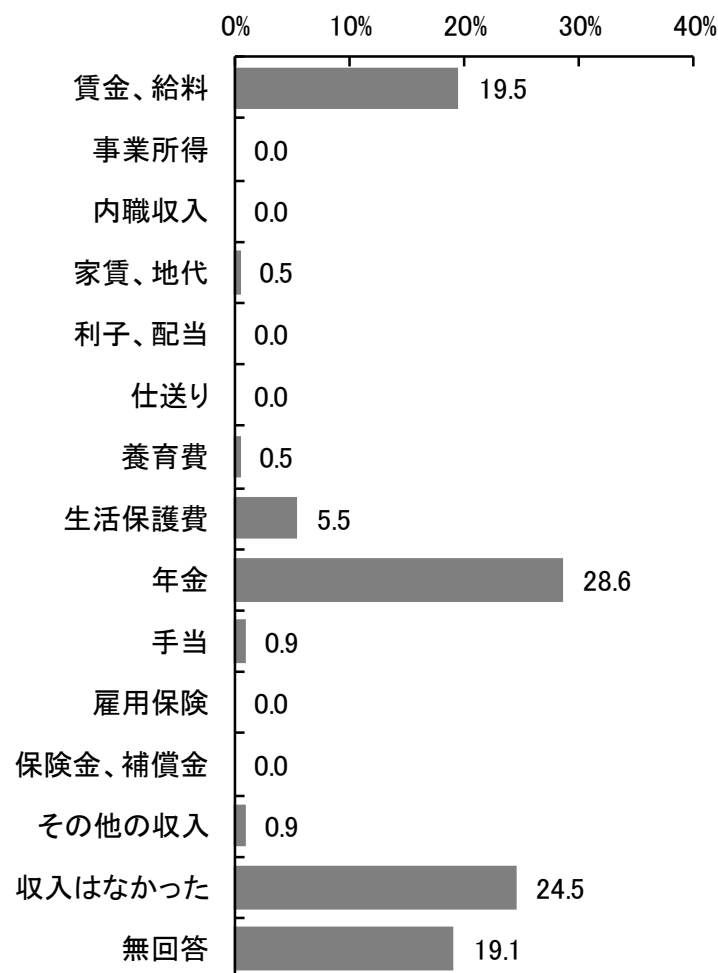
問 16 昨年あなたの収入は何によるものですか。

(主なもの1つに○、その他該当するものがあれば2つまで○)

令和3年中の収入源(主なもの)は、「年金」が28.6%で最も高く、次いで「賃金、給料」19.5%、「生活保護」5.5%となっている。

一方、「収入はなかった」は24.5%である。

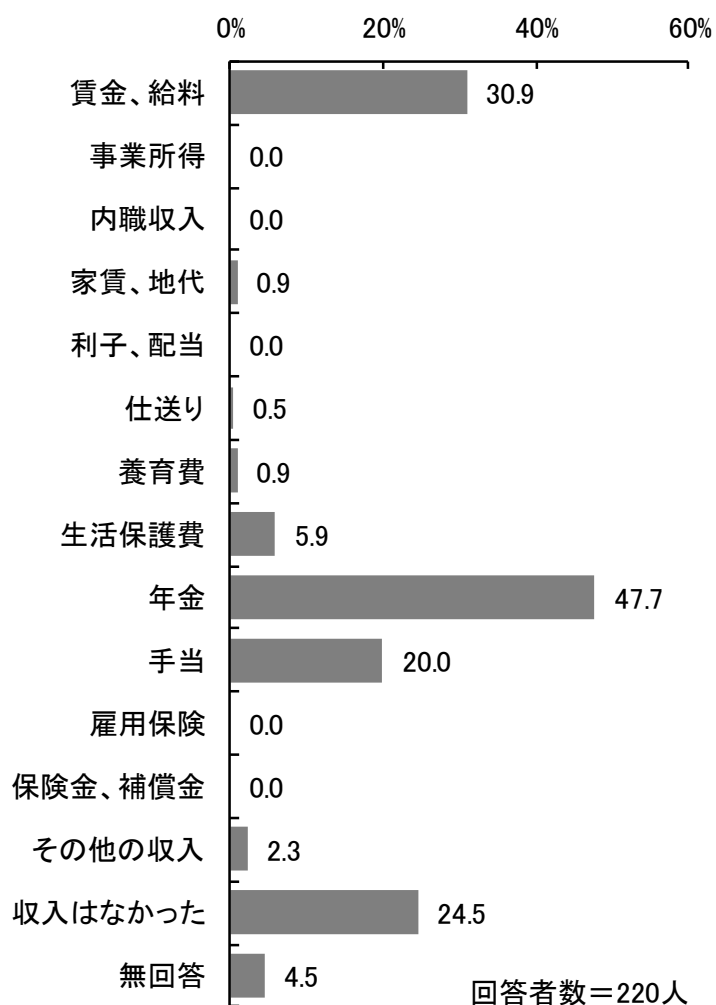
図表 II-27 令和3年中の収入源(主なもの)



回答者数=220人

令和3年中の収入源（該当するものすべて）は、「年金」が47.7%で最も高く、次いで「賃金、給料」30.9%、「手当」20.0%となっている。

図表 II-28 令和3年中の収入源（該当するものすべて）

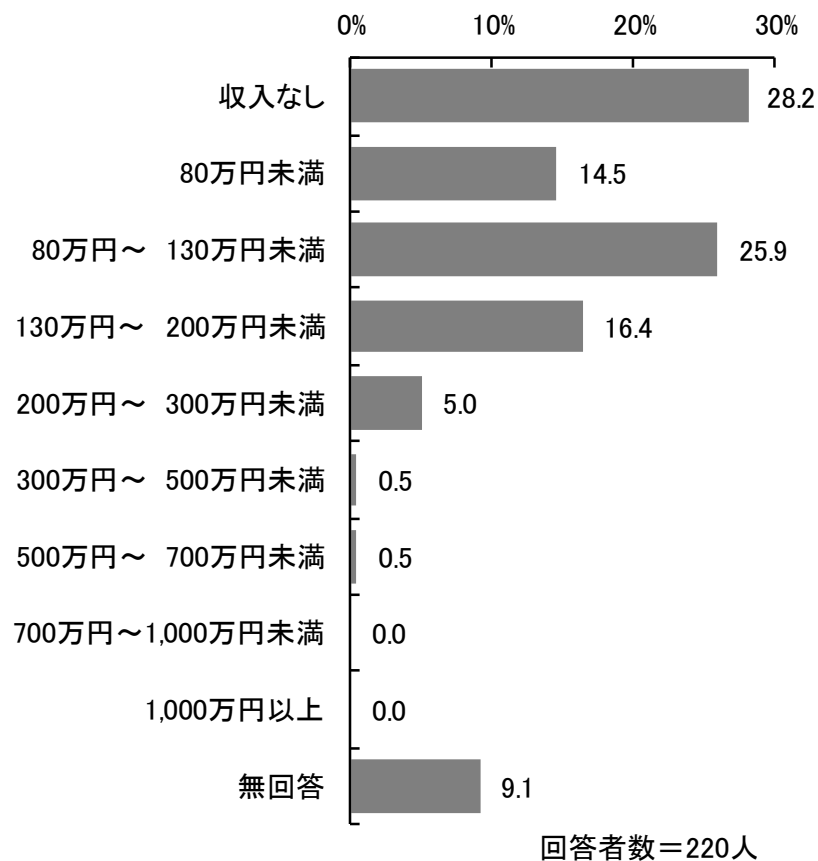


(2) 令和3年中の収入額

問 17 昨年中のすべての収入額はどれくらいでしたか。(〇は1つだけ)

令和3年中の収入額は、「80万円～130万円未満」が25.9%で最も高く、次いで「130万円～200万円未満」16.4%となっている。また、約3割が「収入なし」である。

図表 II-29 令和3年中の収入額



*収入には、あなたがご自身で働いて得た収入のほか、あなたの年金や手当による収入、家族からの仕送りを含みますが、生活保護費は除きます。

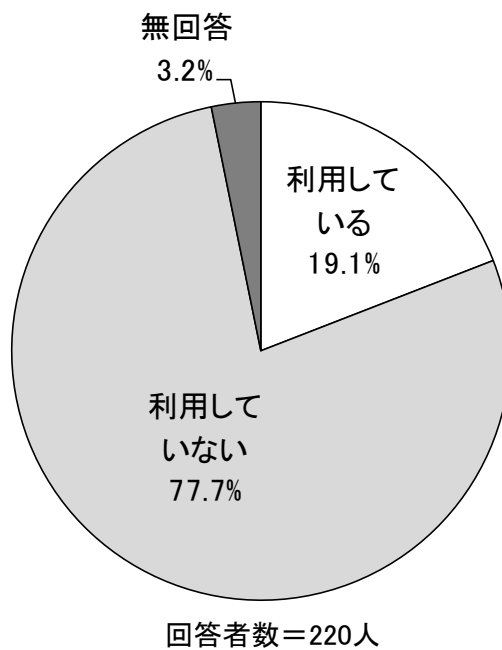
8. 福祉サービスについて

(1) ホームヘルプサービス利用の有無

問 18 あなたはホームヘルプサービス（身体介護、家事援助、通院等介助）を利用していますか。（○は1つだけ）

ホームヘルプサービス（身体介護、家事援助、通院等介助）利用の有無は、「利用している」が19.1%、「利用していない」が77.7%となっている。

図表 II-30 ホームヘルプサービス利用の有無



(2) ホームヘルプサービス提供事業者に対して望むこと

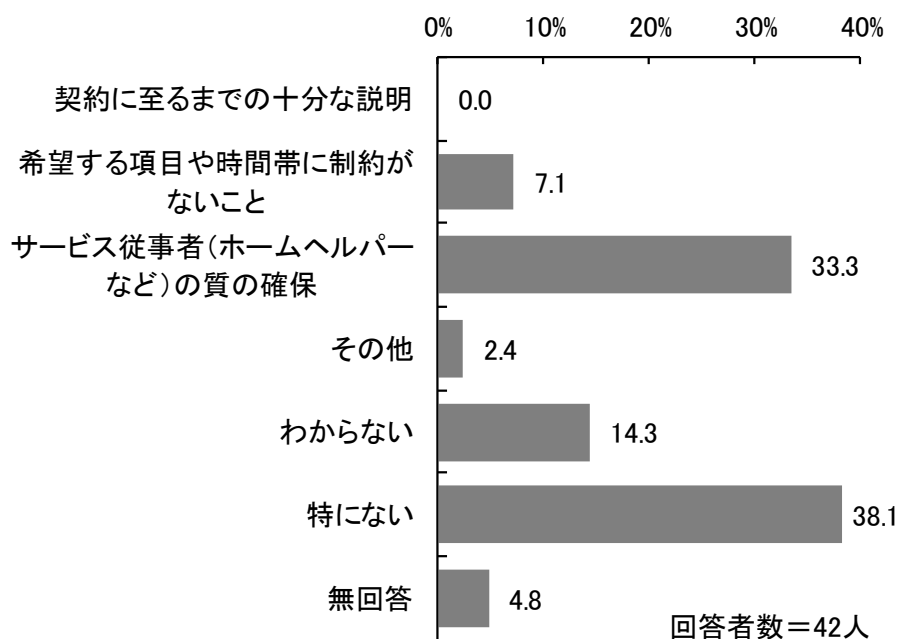
★ 問 18-①は、問 18 で「1.利用している」に○をした方

問 18-① あなたは現在、利用しているサービス提供事業者に対して何か望むことはありますか。(○は1つだけ)

ホームヘルプサービスを「利用している」と回答した方が、ホームヘルプサービス提供事業者に対して望むことが『ある』割合は42.8%、そのうち「サービス従事者（ホームヘルパーなど）の質の確保」が33.3%で最も高くなっている。

一方、「わからない」「特にない」を合わせると52.4%である。

図表 II-3 1 ホームヘルプサービス提供事業者に対して望むこと



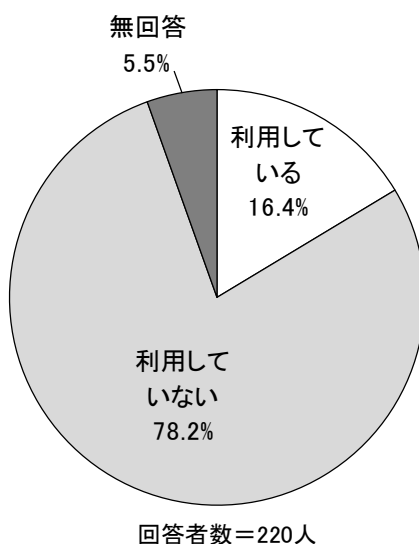
※『ある』 = 「希望する項目や時間帯に制約がないこと」 + 「サービス従事者（ホームヘルパーなど）の質の確保」 + 「その他」

(3) 短期入所施設利用の有無

問 19 あなたは短期入所（ショートステイ）を利用していますか。（○は1つだけ）

短期入所（ショートステイ）施設利用の有無は、「利用している」が 16.4%、「利用していない」が 78.2%となっている。

図表 II-3 2 短期入所施設利用の有無



「利用している」割合を障害の程度別にみると、1度 50.0%、2度 37.5%、年代別にみると、青年期（18～39歳）22.0%、壮年期（40～64歳）15.1%と、他の年代より高くなっている。

図表 II-3 3 短期入所施設利用の有無（障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	利用している %	利用していない %	無回答 %
全体		220	16.4	78.2	5.5
障害の程度別	1度	6	50.0	50.0	0.0
	2度	56	37.5	58.9	3.6
	3度	51	11.8	80.4	7.8
	4度	101	4.0	91.1	5.0
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	100.0	0.0
	就学期（5～17歳）	47	8.5	85.1	6.4
	青年期（18～39歳）	91	22.0	76.9	1.1
	壮年期（40～64歳）	53	15.1	75.5	9.4
	高齢期（65歳以上）	9	11.1	77.8	11.1

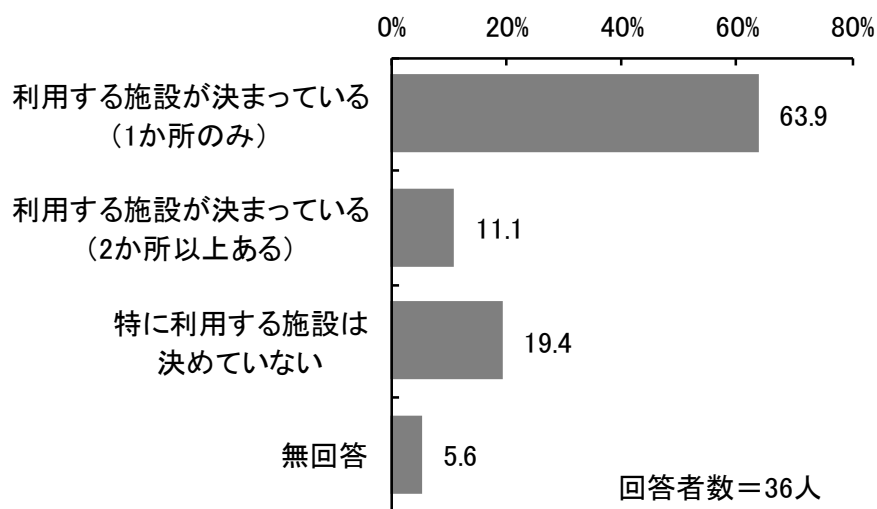
単位：%

(4) 利用する短期入所施設は決まっているか

★ 問 19-①②は、問 19 で「1.利用している」に○をした方
問 19-① 利用する施設は決まっていますか。(○は1つだけ)

利用する短期入所施設は決まっているかは、「利用する施設が決まっている(1か所のみ)」が 63.9%で半数以上となっている。次いで「特に利用する施設は決めていない」19.4%、「利用する施設が決まっている(2か所以上ある)」11.1%となっている。

図表 II-3 4 利用する短期入所施設は決まっているか

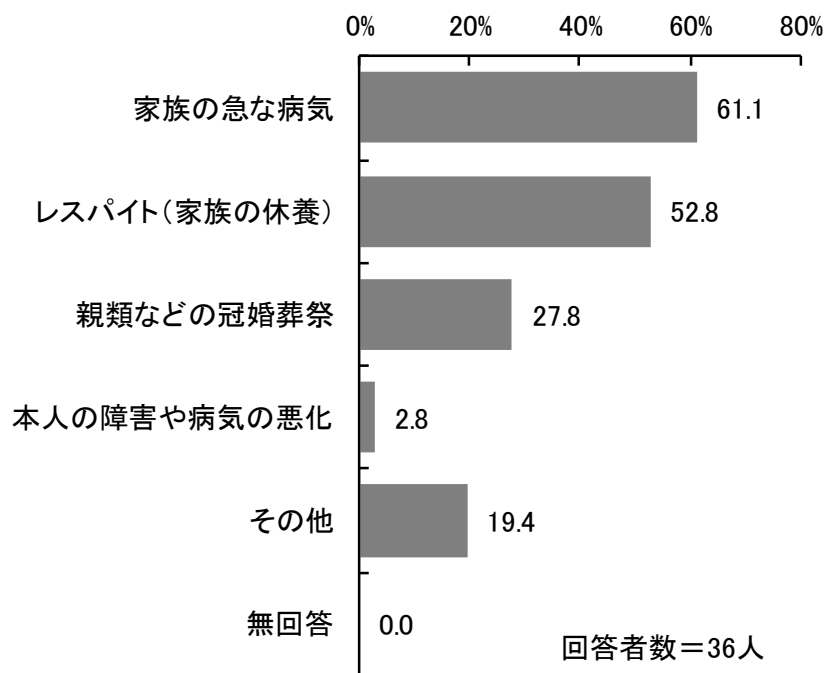


(5) 短期入所施設の利用目的

問 19-② 利用の主な目的は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

短期入所施設の利用目的は、「家族の急な病気」が61.1%で最も高く、次いで「レスパイト(家族の休養)」52.8%、「親類などの冠婚葬祭」27.8%となっている。

図表 II-35 短期入所施設の利用目的

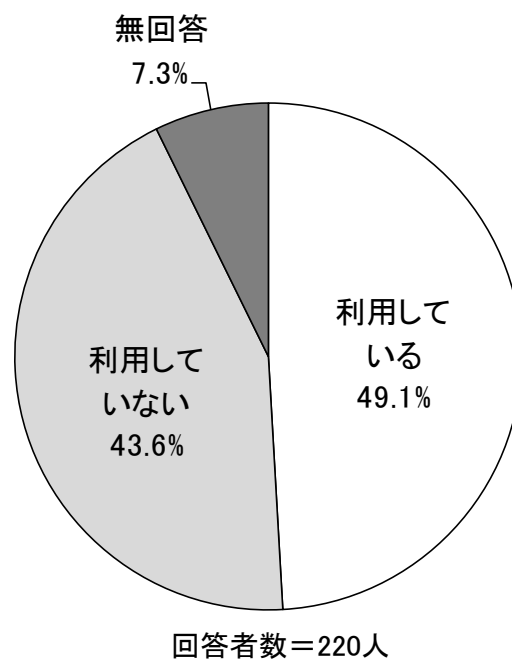


(6) 通所施設利用の有無

問 20 あなたは通所施設を利用していますか。(○は1つだけ)

通所施設利用の有無は、「利用している」が 49.1%、「利用していない」は 43.6%となっている。

図表 II-36 通所施設利用の有無

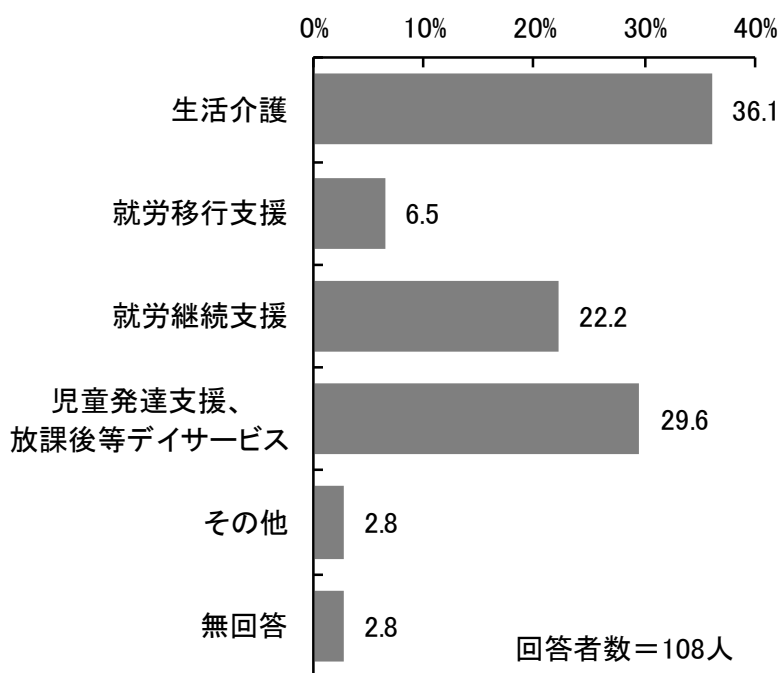


(7) 利用している通所施設の種類

★ 問20-①②は、問20で「1.利用している」に○をした方
問20-① あなたが利用している通所施設は何ですか。(○は1つだけ)

利用している通所施設の種類は、「生活介護」が36.1%で最も高く、次いで「児童発達支援、放課後等デイサービス」29.6%、「就労継続支援」22.2%、「就労移行支援」6.5%となっている。

図表 II-37 利用している通所施設の種類



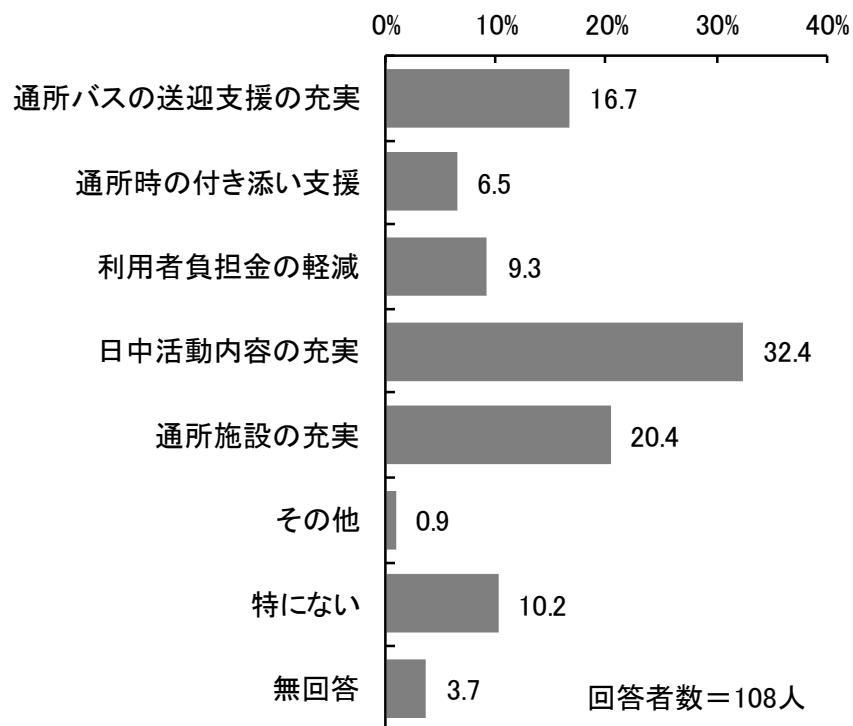
(8) 通所を続けていくために重要なこと

問 20-② あなたが通所を続けていくために最も重要だと感じることは何ですか。

(○は1つだけ)

通所を続けていくために重要なことは、「日中活動内容の充実」が32.4%で最も高く、次いで「通所施設の充実」20.4%、「通所バスの送迎支援の充実」16.7%となっている。

図表 II-38 通所を続けていくために重要なこと



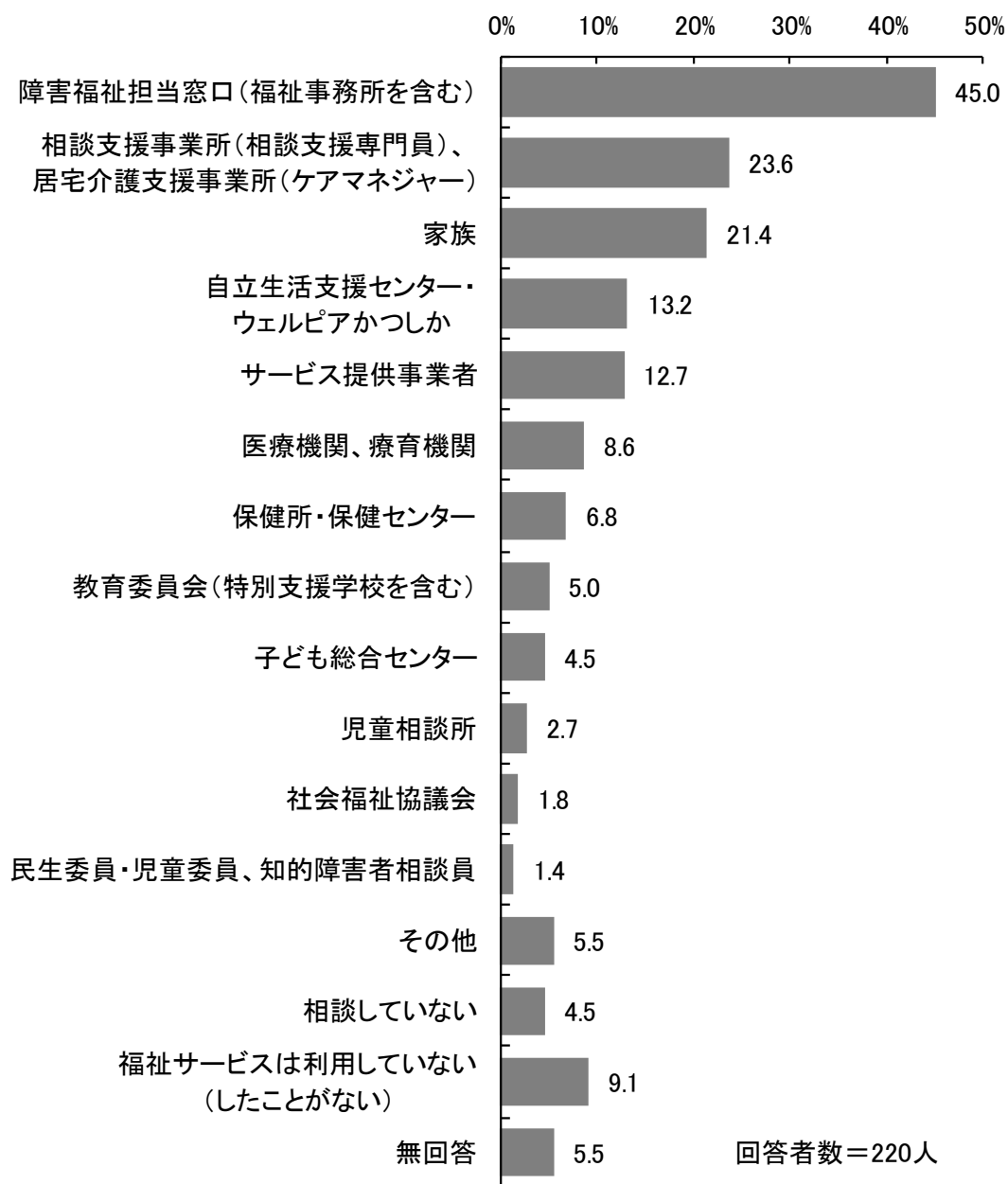
(9) サービスを利用する際の相談先

問 21 あなたは福祉サービスを利用する際にどこに相談しましたか。

(○はあてはまるものすべて)

サービスを利用する際の相談先は、「障害福祉担当窓口（福祉事務所を含む）」が 45.0%と最も高く、次いで「相談支援事業所（相談支援専門員）、居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）」23.6%、「家族」21.4%となっている。

図表 II-39 サービスを利用する際の相談先

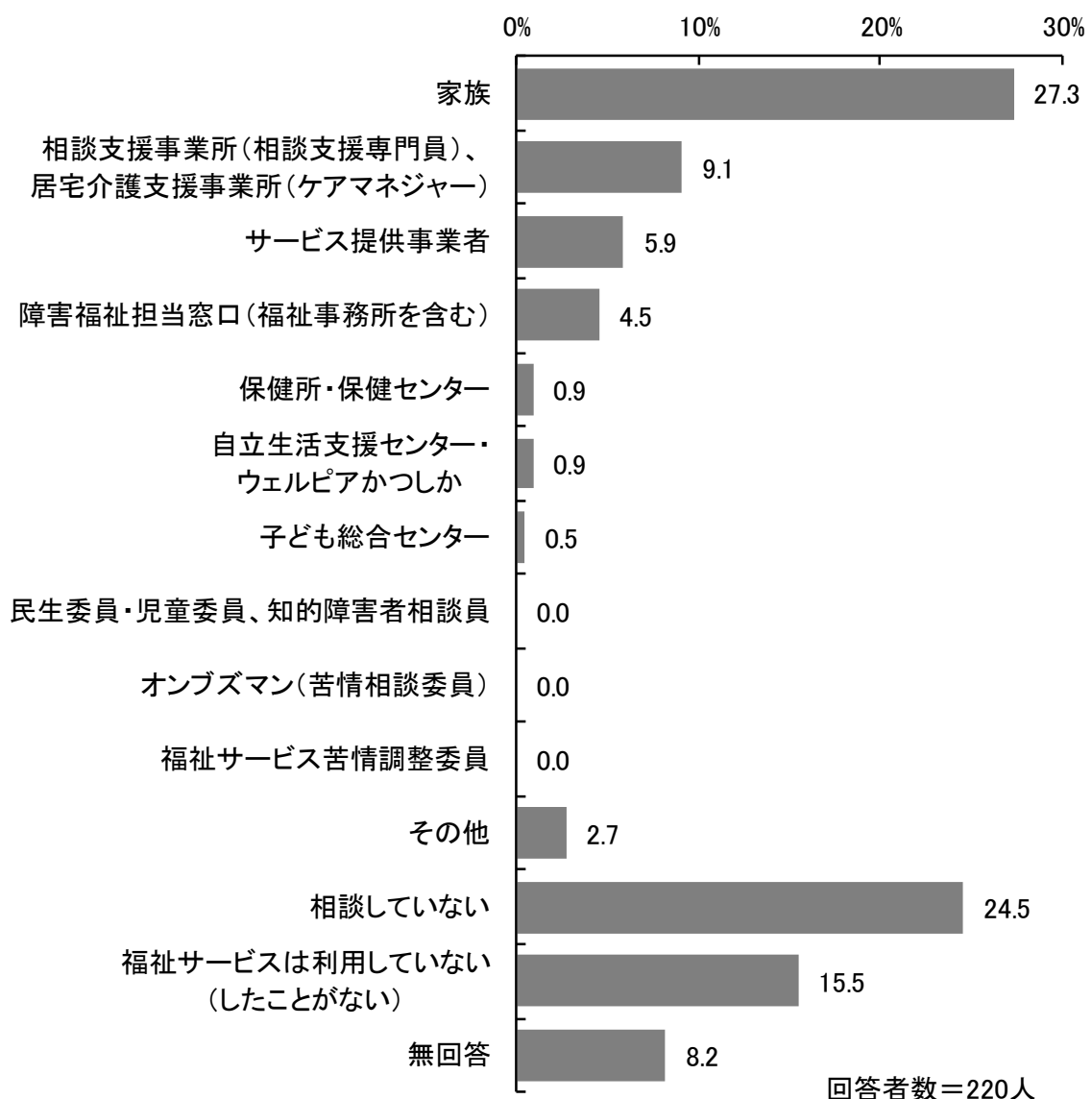


(10) サービス等への不満や苦情の主な相談先

問 22 あなたは、福祉サービスを利用したときの不満や苦情を主にどこに相談していますか。
(○は1つだけ)

サービス等への不満や苦情の主な相談先は、「家族」が27.3%で最も高く、次いで「相談支援事業所（相談支援専門員）、居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）」9.1%、「サービス提供事業者」5.9%となっている。

図表 II-40 サービス等への不満や苦情の主な相談先

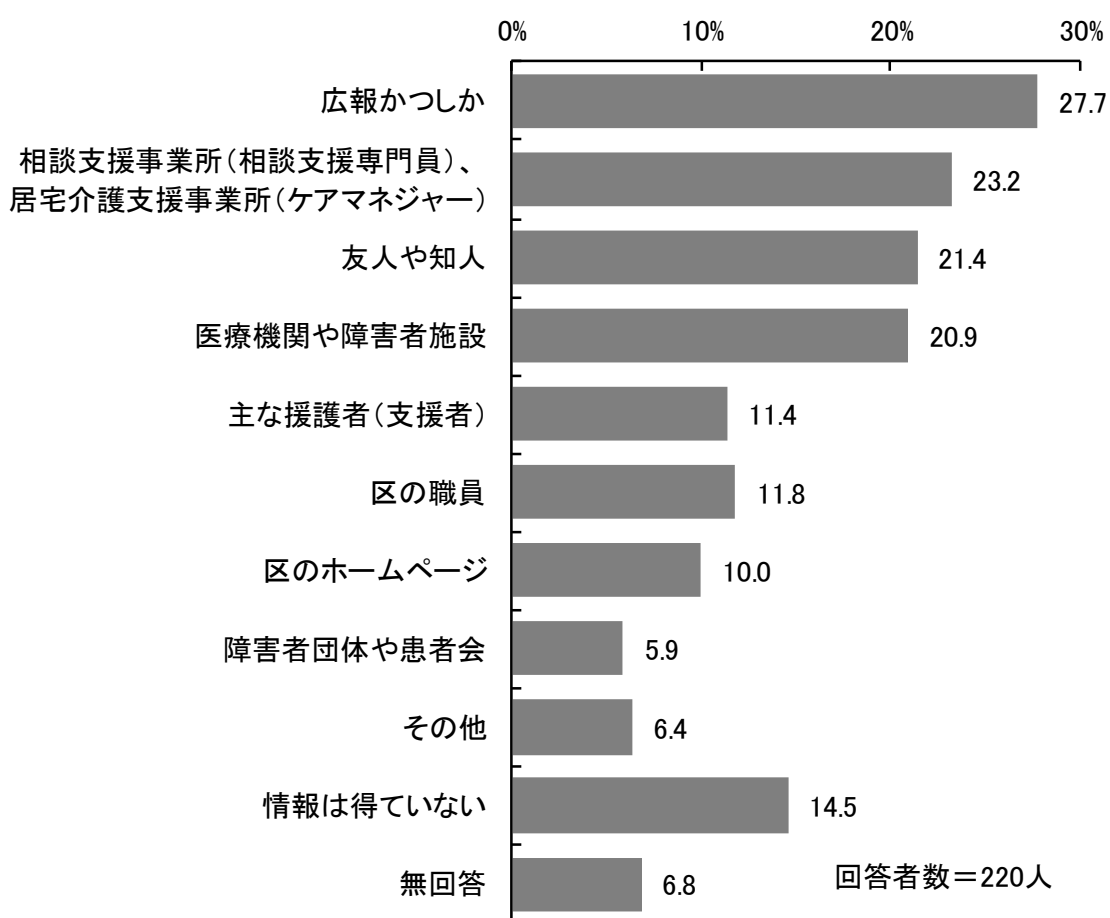


(11) 福祉サービスの情報源

問 23 福祉サービスの情報は、どこから得ていますか。(〇はあてはまるものすべて)

福祉サービスの情報源は、「広報かつしか」が27.7%で最も高く、次いで「相談支援事業所(相談支援専門員)、居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)」23.2%、「友人や知人」21.4%、「医療機関や障害者施設」20.9%となっている。
一方、「情報は得ていない」は14.5%である。

図表 II-4 1 福祉サービスの情報源



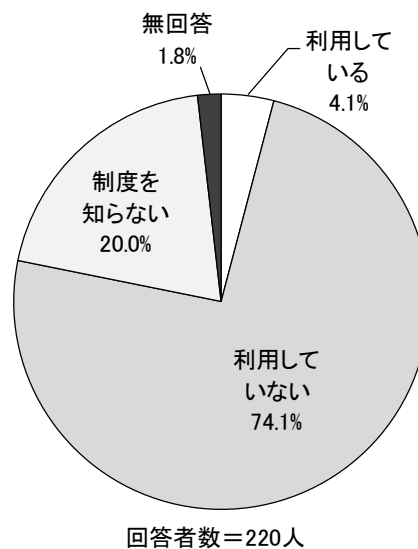
9. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の利用状況

問 24 成年後見制度を利用していますか。(○は1つだけ)

成年後見制度の利用状況は、「利用していない」が74.1%で7割を占め、「利用している」は4.1%となっている。

図表 II-4 2 成年後見制度の利用状況



障害の程度別にみると、1度では「利用している」が16.7%、4度では「制度を知らない」が28.7%と、他の障害程度より高くなっている。

図表 II-4 3 成年後見制度の利用状況（障害の程度別）

		回答者数 △	利用している	利用していない	制度を知らない	無回答
全 体		220	4.1	74.1	20.0	1.8
障害の程度別	1 度	6	16.7	83.3	0.0	0.0
	2 度	56	5.4	82.1	10.7	1.8
	3 度	51	5.9	78.4	13.7	2.0
	4 度	101	2.0	67.3	28.7	2.0

単位：%

(2) 成年後見制度の利用意向

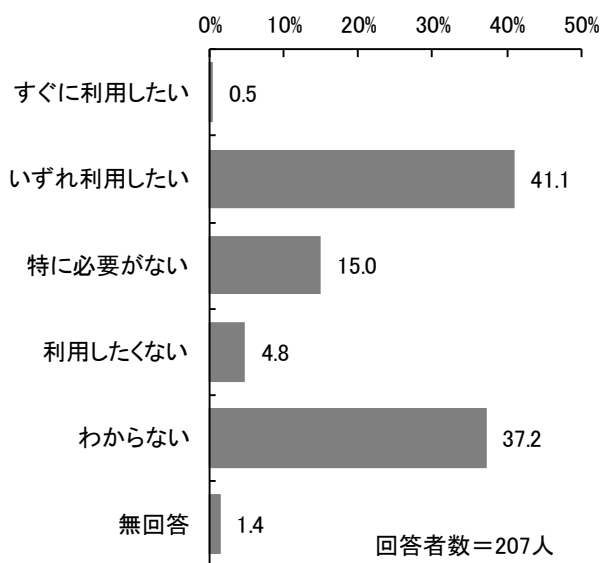
★ 問24-①は、問24で「2.利用していない」「3.制度を知らない」のいずれかに○をした方

問24-① 成年後見制度を利用したいですか。(○は1つだけ)

成年後見制度の利用意向は、「いずれ利用したい」が41.1%で最も高く、次いで「特に必要がない」15.0%、「利用したくない」4.8%となっている。

一方、「わからない」は37.2%である。

図表 II-4 4 成年後見制度の利用意向



障害の程度別にみると、「いずれ利用したい」が1度では60.0%、2度では59.6%と、他の障害程度より高くなっている。

図表 II-4 5 成年後見制度の利用意向（障害の程度別）

		回答者数	すぐに利用したい	いずれ利用したい	特に必要がない	利用したくない	わからない	無回答
全体		207	0.5	41.1	15.0	4.8	37.2	1.4
障害の程度別	1度	5	0.0	60.0	0.0	20.0	20.0	0.0
	2度	52	1.9	59.6	13.5	3.8	19.2	1.9
	3度	47	0.0	38.3	12.8	2.1	44.7	2.1
	4度	97	0.0	33.0	17.5	5.2	43.3	1.0

単位：%

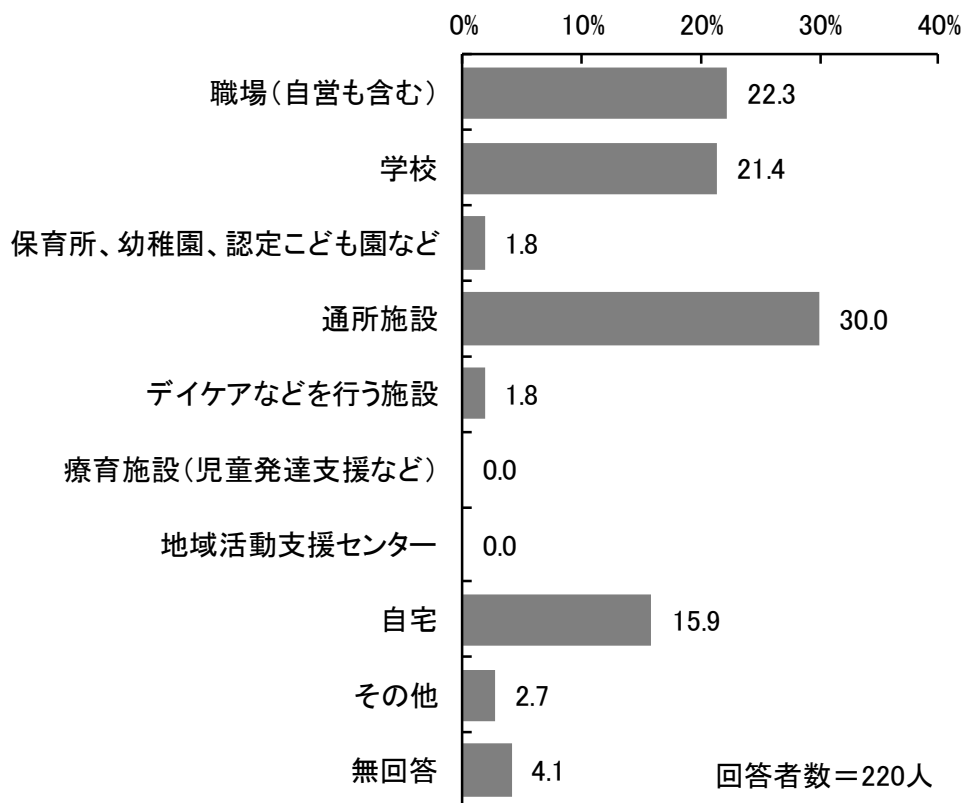
10. 社会参加などについて

(1) 平日の日中の、主な活動場所

問 25 この1年間あなたは、平日の日中、主にどこで過ごしましたか。(〇は1つだけ)

平日の日中の、主な活動場所は、「通所施設」が30.0%で最も高く、次いで「職場（自営も含む）」22.3%、「学校」21.4%、「自宅」15.9%となっている。

図表 II-46 平日の日中の、主な活動場所



障害の程度別にみると、障害程度が軽度なほど「職場（自営も含む）」「学校」の割合が高く、重度なほど「通所施設」の割合が高くなっている。

年代別にみると、就学期（5～17歳）では「学校」が、青年期（18～39歳）では「職場（自営も含む）」「通所施設」が、壮年期（40～64歳）では「通所施設」が、高齢期（65歳以上）では「自宅」の割合が高くなっている。

図表 II-47 平日の日中の、主な活動場所（障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	職場 自営も含む	学校	保育所 幼稚園 認定こども園など	通所施設	デイケアなど を行う施設	療育施設 （児童発達支援など	地域活動 支援 センター	自宅	その他	無回答
全体		220	22.3	21.4	1.8	30.0	1.8	0.0	0.0	15.9	2.7	4.1
障害の 程度別	1度	6	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
	2度	56	0.0	17.9	0.0	60.7	1.8	0.0	0.0	12.5	1.8	5.4
	3度	51	17.6	25.5	3.9	33.3	2.0	0.0	0.0	9.8	2.0	5.9
	4度	101	39.6	22.8	2.0	8.9	2.0	0.0	0.0	19.8	2.0	3.0
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	47	0.0	89.4	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1	2.1
	青年期（18～39歳）	91	35.2	5.5	0.0	35.2	1.1	0.0	0.0	15.4	3.3	4.4
	壮年期（40～64歳）	53	22.6	0.0	0.0	49.1	0.0	0.0	0.0	22.6	0.0	5.7
	高齢期（65歳以上）	9	0.0	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0

単位：％

(2) 日中活動を行うにあたって充実してほしいこと

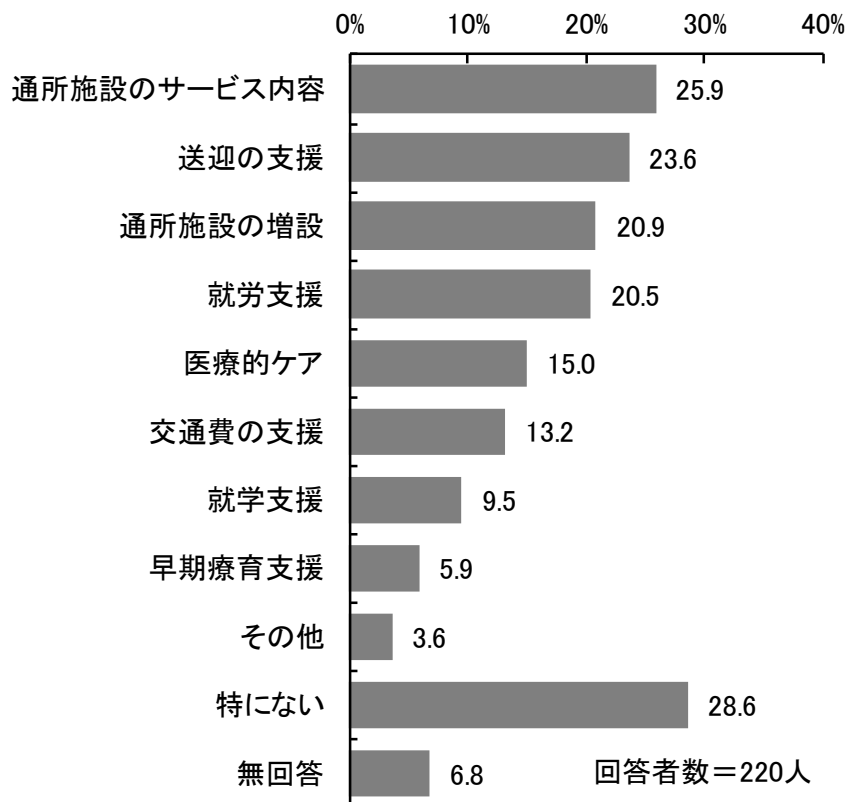
問 26 日中活動を行うにあたって、今後、充実してほしいことは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

日中活動を行うにあたって充実してほしいことは、「通所施設のサービス内容」が 25.9%で最も高く、次いで「送迎の支援」23.6%、「通所施設の増設」20.9%、「就労支援」20.5%、となっている。

一方、「特にない」は 28.6%である。

図表 II-48 日中活動を行うにあたって充実してほしいこと



障害の程度別にみると、1度は「送迎の支援」「通所施設のサービス内容」がともに50.0%と、他の障害程度より高くなっている。また障害程度が軽度なほど「交通費の支援」「就学支援」の割合が高くなっている。

年代別にみると、就学期（5～17歳）では「送迎の支援」「通所施設の増設」「就労支援」「就学支援」の割合が高くなっている。

図表 II-49 日中活動を行うにあたって充実してほしいこと（障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	通所施設の サービス内容	送迎の 支援	通所施設 の増設	就労 支援	医療的 ケア	交通費 の支援
全体		220	25.9	23.6	20.9	20.5	15.0	13.2
障害の 程度別	1度	6	50.0	50.0	33.3	0.0	33.3	0.0
	2度	56	44.6	33.9	39.3	8.9	28.6	5.4
	3度	51	29.4	25.5	17.6	29.4	9.8	13.7
	4度	101	12.9	15.8	11.9	23.8	8.9	16.8
年代別	幼児期（0～4歳）	2	100.0	0.0	100.0	50.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	47	21.3	46.8	25.5	31.9	10.6	21.3
	青年期（18～39歳）	91	27.5	18.7	18.7	23.1	17.6	12.1
	壮年期（40～64歳）	53	26.4	18.9	17.0	11.3	17.0	13.2
	高齢期（65歳以上）	9	22.2	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0

		回答者数 人	就学 支援	早期療育 支援	その他	特 に ない	無 回 答
全体		220	9.5	5.9	3.6	28.6	6.8
障害の 程度別	1度	6	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	2度	56	3.6	3.6	5.4	8.9	8.9
	3度	51	7.8	11.8	5.9	21.6	7.8
	4度	101	14.9	5.0	2.0	43.6	5.9
年代別	幼児期（0～4歳）	2	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	47	27.7	12.8	4.3	12.8	4.3
	青年期（18～39歳）	91	5.5	3.3	4.4	36.3	4.4
	壮年期（40～64歳）	53	1.9	3.8	1.9	28.3	11.3
	高齢期（65歳以上）	9	0.0	0.0	0.0	44.4	11.1

単位：%

(3) 趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動

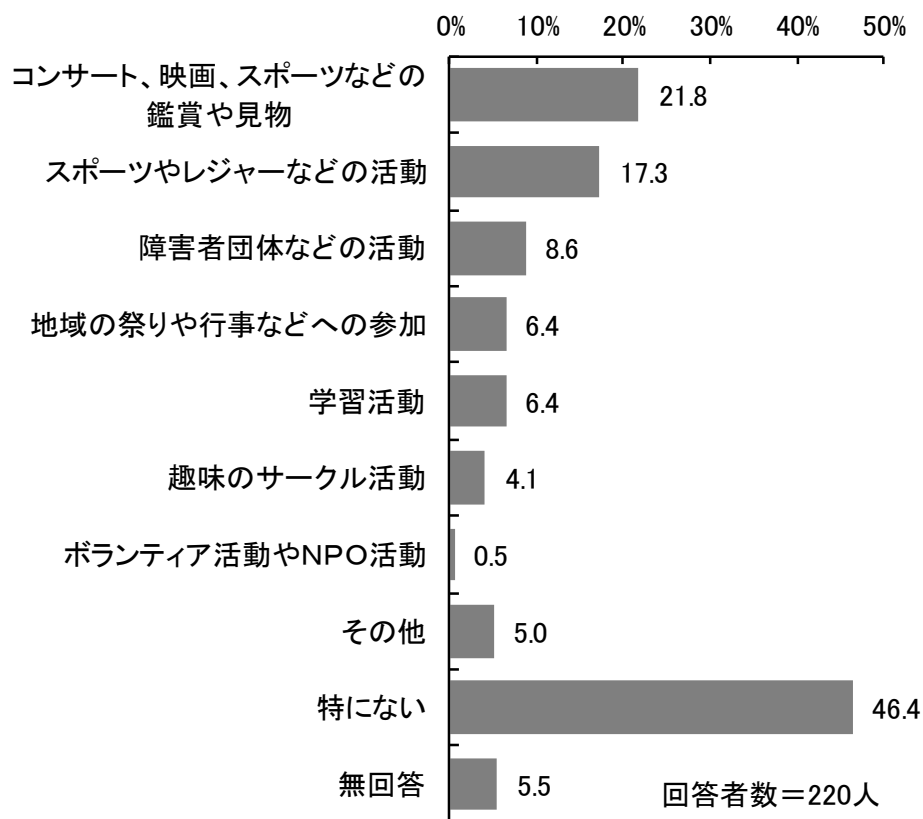
問 27 あなたは、この1年間に趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動をしましたか。

(○はあてはまるものすべて)

趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動は、「コンサート、映画、スポーツなどの鑑賞や見物」が21.8%で最も高く、次いで「スポーツやレジャーなどの活動」17.3%、「障害者団体などの活動」8.6%となっている。

一方、「特にない」は46.4%である。

図表 II-50 趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動



障害の程度別にみると、1度で「スポーツやレジャーなどの活動」が33.3%、4度で「コンサート、映画、スポーツなどの鑑賞や見物」が27.7%と他の障害程度より高くなっている。

年代別にみると、就学期（5～17歳）では「スポーツやレジャーなどの活動」、青年期（18～39歳）、壮年期（40～64歳）、高齢期（65歳以上）では「コンサート、映画、スポーツなどの鑑賞や見物」の割合が高くなっている。

図表 II-5 1 趣味や学習、スポーツ、社会活動などの活動（障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	コンサート、映画、スポーツなどの鑑賞や見物	スポーツやレジャーなどの活動	障害者団体などの活動	地域の祭りや行事などへの参加	学習活動	趣味のサークル活動	NPO活動 ボランティア活動や	その他	特になし	無回答
全体		220	21.8	17.3	8.6	6.4	6.4	4.1	0.5	5.0	46.4	5.5
障害の程度別	1度	6	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	2度	56	12.5	12.5	8.9	1.8	7.1	3.6	0.0	1.8	53.6	7.1
	3度	51	23.5	21.6	13.7	13.7	5.9	5.9	2.0	7.8	37.3	9.8
	4度	101	27.7	17.8	6.9	5.9	6.9	4.0	0.0	5.9	43.6	3.0
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	就学期（5～17歳）	47	29.8	36.2	4.3	12.8	23.4	4.3	0.0	2.1	25.5	2.1
	青年期（18～39歳）	91	23.1	18.7	11.0	6.6	3.3	6.6	1.1	7.7	44.0	4.4
	壮年期（40～64歳）	53	15.1	3.8	11.3	3.8	0.0	0.0	0.0	3.8	54.7	11.3
	高齢期（65歳以上）	9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.9	0.0

単位：%

(4) この1年間にスポーツを行った頻度と障害者スポーツを行った経験

問 28 あなたは、この1年間にスポーツ（学校体育を除く）をどれくらい行いましたか。
 (○は1つだけ)

★ 問 29 は、問 28 で「1.週に3日以上」「2.週に1～2日」「3.月に1～3日」「4.3か月に1～2日」「5.年に1～3日」のいずれかに○をした方

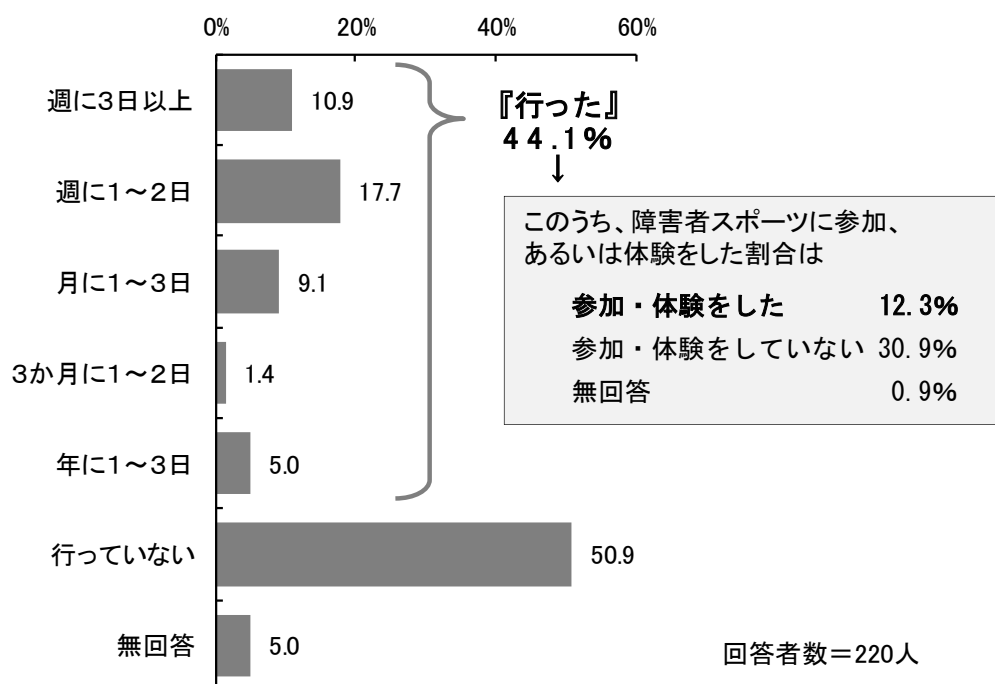
問 29 あなたは、この1年間に障害者スポーツ（ボッチャ、ブラインドサッカー、フロアホッケーなど）に参加、あるいは体験をしたことがありますか。(○は1つだけ)

この1年間にスポーツを行った頻度は、「週に1～2日」が17.7%で最も高く、次いで「週に3日以上」10.9%、「月に1～3日」9.1%となっている。年代別にみると、スポーツを『行った』人は、19歳以下で66.1%、20歳以上で37.1%である。

一方、「行っていない」は50.9%である。

この1年間にスポーツを『行った』44.1% (97人) の内、障害者スポーツを行った経験について、回答者全体の12.3%が「参加、あるいは体験をした」、30.9%が「参加、あるいは体験をしていない」と回答している。

図表 II-5 2 この1年間にスポーツを行った頻度と障害者スポーツを行った経験



※『行った』=「週に3日以上」+「週に1～2日」+「月に1～3日」+「3か月に1～2日」+「年に1～3日」

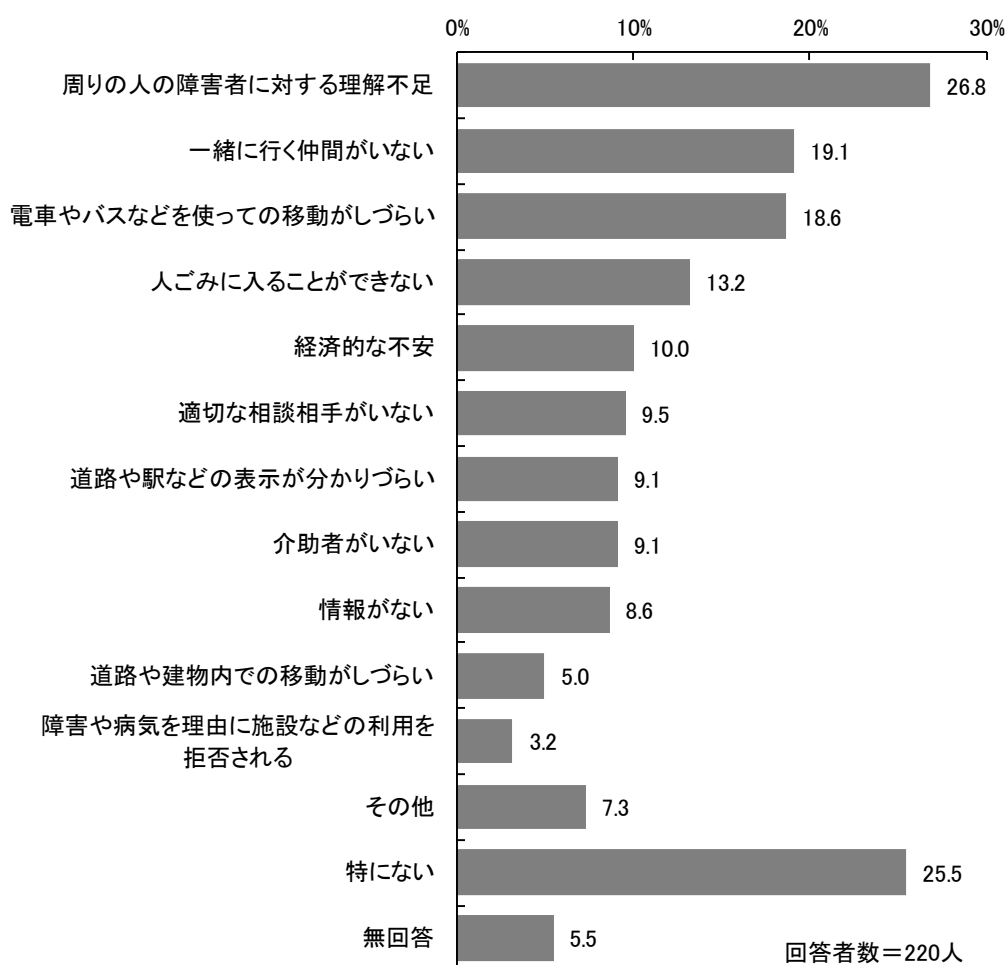
*スポーツとは、サッカーや野球など競技スポーツだけでなく、ウォーキングや体操、ストレッチ、散歩、自転車などの20分程度の運動も含まれます。

(5) 日常生活や社会参加で妨げになっていること

問 30 あなたが日常生活や社会参加をするうえで、特に妨げになっていることはありますか。
(○は3つまで)

日常生活や社会参加で妨げになっていることは、「周りの人の障害者に対する理解不足」が26.8%で最も高く、次いで「一緒に行く仲間がない」19.1%となっている。一方、「特にない」は25.5%である。

図表 II-5 3 日常生活や社会参加で妨げになっていること



障害の程度別にみると、障害程度が重度なほど「電車やバスなどを使っての移動がしづらい」割合が高くなっている。また、2度で「周りの人の障害者に対する理解不足」が41.1%と他の障害程度より高くなっている。

年代別にみると、年代が低いほど「周りの人の障害者に対する理解不足」の割合が高くなっている。

図表 II-5 4 日常生活や社会参加で妨げになっていること（障害の程度別/年代別）

		回答者数人	周りの人の障害者に対する理解不足	一緒に行く仲間がいない	電車やバスなどを使つての移動がしづかい	人ごみに入ることができない	経済的な不安	適切な相談相手がない	道路や駅などの表示が分かりづかい
全体		220	26.8	19.1	18.6	13.2	10.0	9.5	9.1
障害の程度別	1度	6	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7
	2度	56	41.1	16.1	28.6	23.2	0.0	8.9	5.4
	3度	51	25.5	13.7	19.6	7.8	3.9	11.8	9.8
	4度	101	18.8	24.8	12.9	11.9	19.8	9.9	10.9
年代別	幼児期（0～4歳）	2	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	47	40.4	14.9	23.4	8.5	8.5	8.5	14.9
	青年期（18～39歳）	91	26.4	24.2	14.3	18.7	7.7	7.7	6.6
	壮年期（40～64歳）	53	17.0	17.0	22.6	11.3	13.2	15.1	11.3
	高齢期（65歳以上）	9	11.1	22.2	0.0	22.2	33.3	0.0	11.1

		回答者数人	介助者がいない	情報がない	道路や建物内での移動がしづかい	障害や病気を理由に施設などの利用を拒否される	その他	特にない	無回答
全体		220	9.1	8.6	5.0	3.2	7.3	25.5	5.5
障害の程度別	1度	6	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0
	2度	56	17.9	7.1	3.6	5.4	7.1	14.3	8.9
	3度	51	5.9	11.8	7.8	2.0	9.8	25.5	13.7
	4度	101	4.0	7.9	4.0	3.0	5.9	30.7	0.0
年代別	幼児期（0～4歳）	2	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	47	4.3	14.9	6.4	6.4	12.8	25.5	2.1
	青年期（18～39歳）	91	11.0	7.7	3.3	3.3	6.6	23.1	6.6
	壮年期（40～64歳）	53	3.8	1.9	3.8	0.0	5.7	30.2	7.5
	高齢期（65歳以上）	9	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0

単位：%

1.1. 地震などの災害について

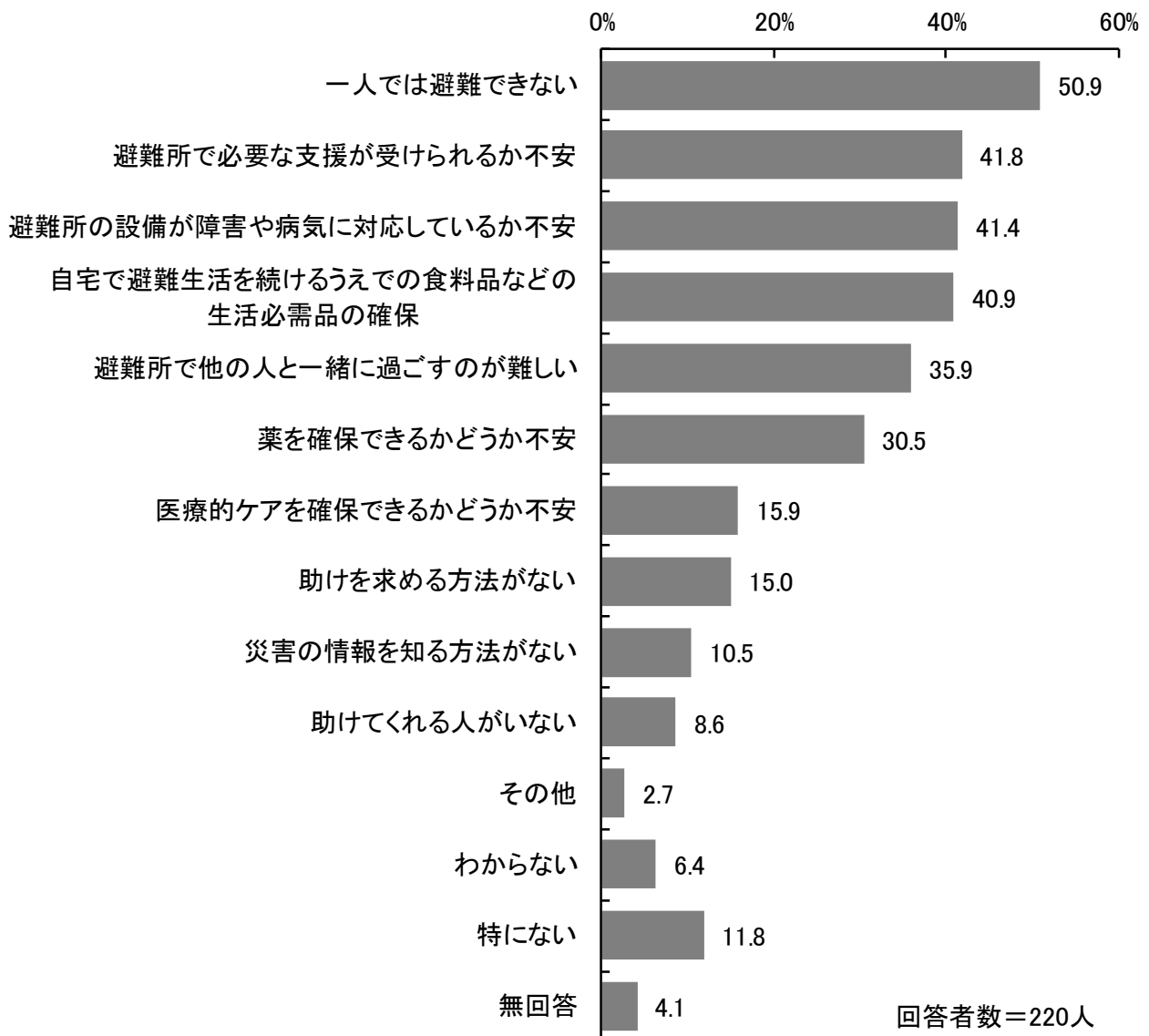
(1) 災害が発生したときに困ることや不安なこと

問 31 地震などの災害が発生したときに困ることや不安なことは何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

災害が発生したときに困ることや不安なことは、「一人では避難できない」が 50.9%で半数以上となっている。次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」41.8%、「避難所の設備が障害や病気に対応しているか不安」41.4%となっている。

図表 II-55 災害が発生したときに困ることや不安なこと



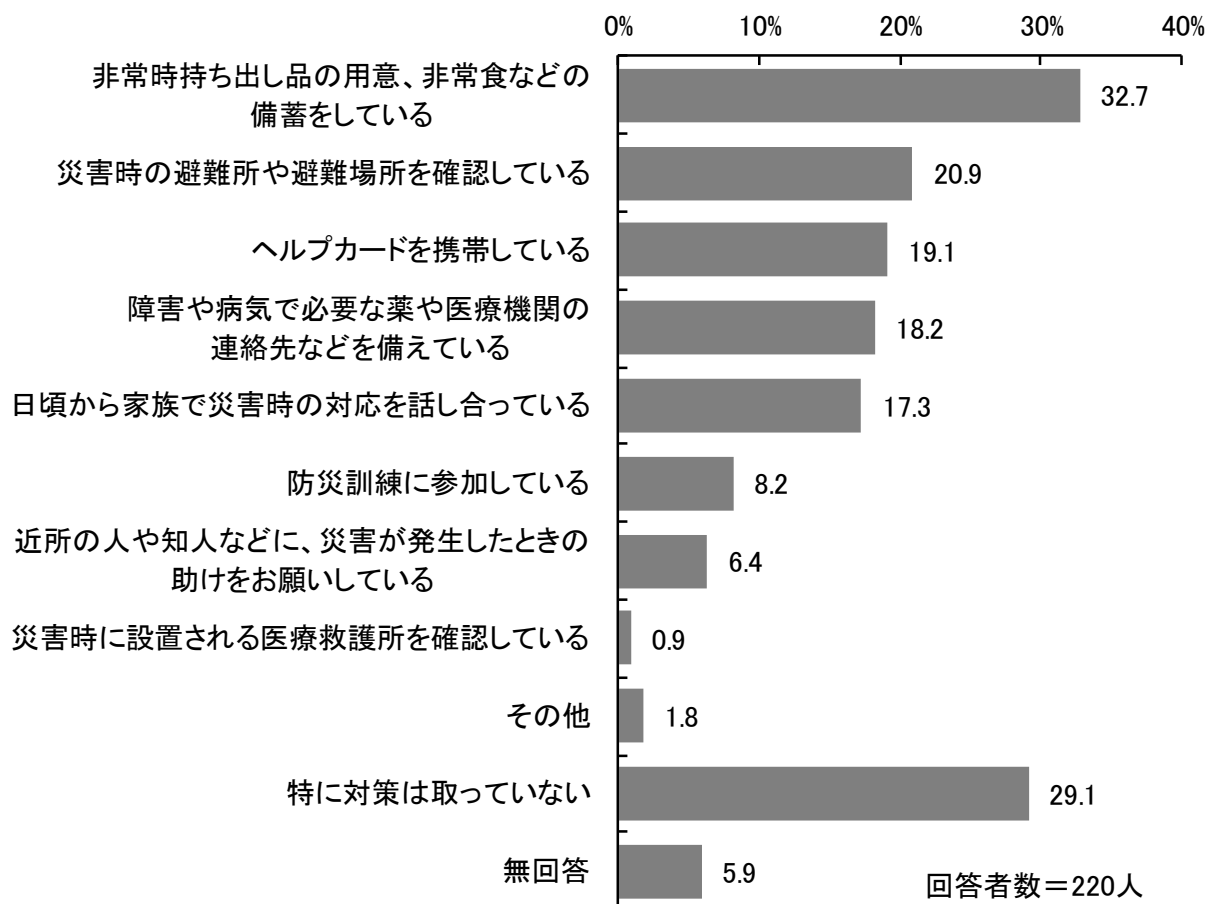
(2) 災害に対して備えていること

問 32 災害に対してどのような備えをしていますか。(〇はあてはまるものすべて)

災害に対して備えていることは、「非常時持ち出し品の用意、非常食などの備蓄をしている」が32.7%で最も高く、次いで「災害時の避難所や避難場所を確認している」20.9%、「ヘルプカードを携帯している」19.1%、「障害や病気で必要な薬や医療機関の連絡先などを備えている」18.2%などとなっている。

一方、「特に対策は取っていない」は29.1%である。

図表 II-5 6 災害に対して備えていること



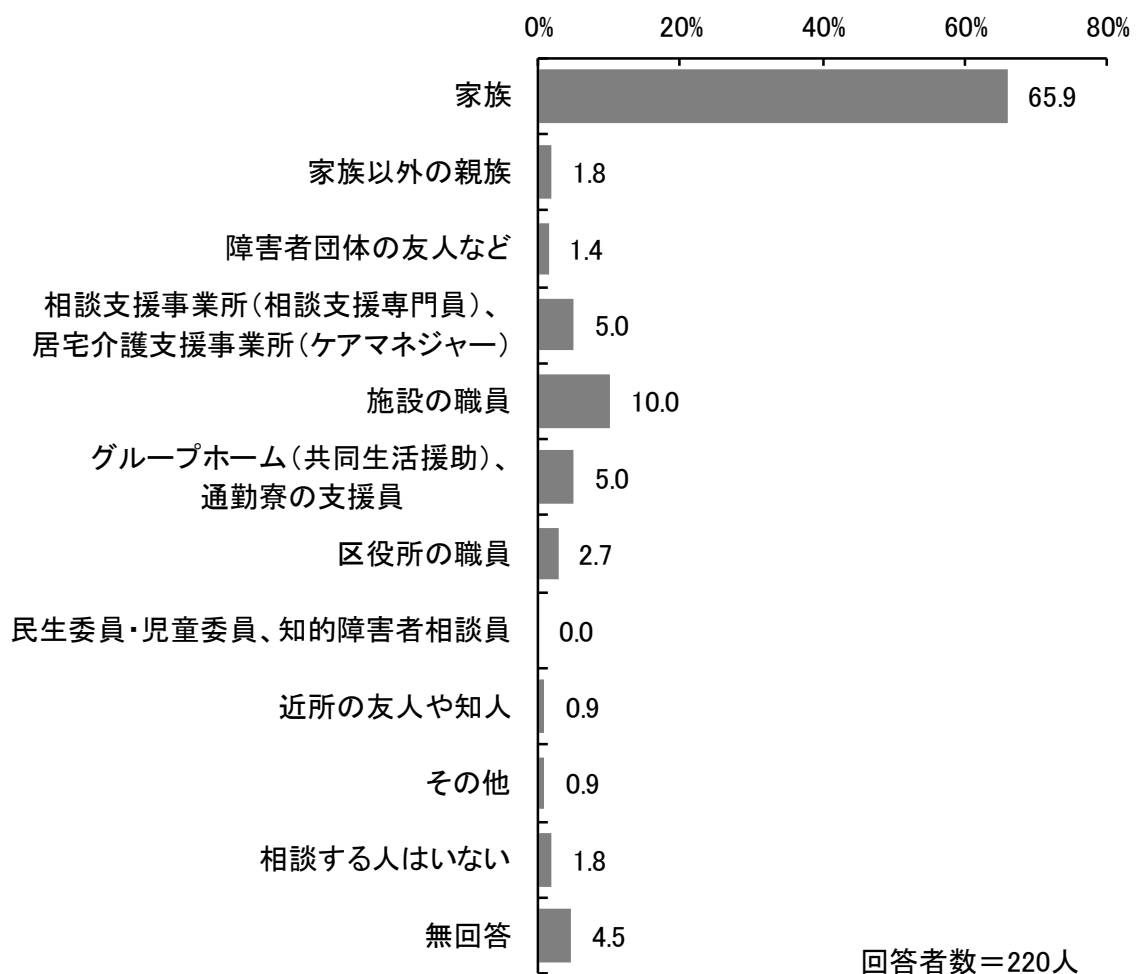
12. 日常や今後の暮らしについて

(1) 困ったことがある場合の相談相手

問 33 何か困ったことがある場合、相談する人はだれですか。(○は主な相談者に1つだけ)

困ったことがある場合の相談相手は、「家族」が 65.9%で最も高くなっている。次いで「施設の職員」10.0%、「相談支援事業所（相談支援専門員）、居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）」「グループホーム（共同生活援助）、通勤寮の支援員」がともに 5.0%となっている。

図表 II-57 困ったことがある場合の相談相手



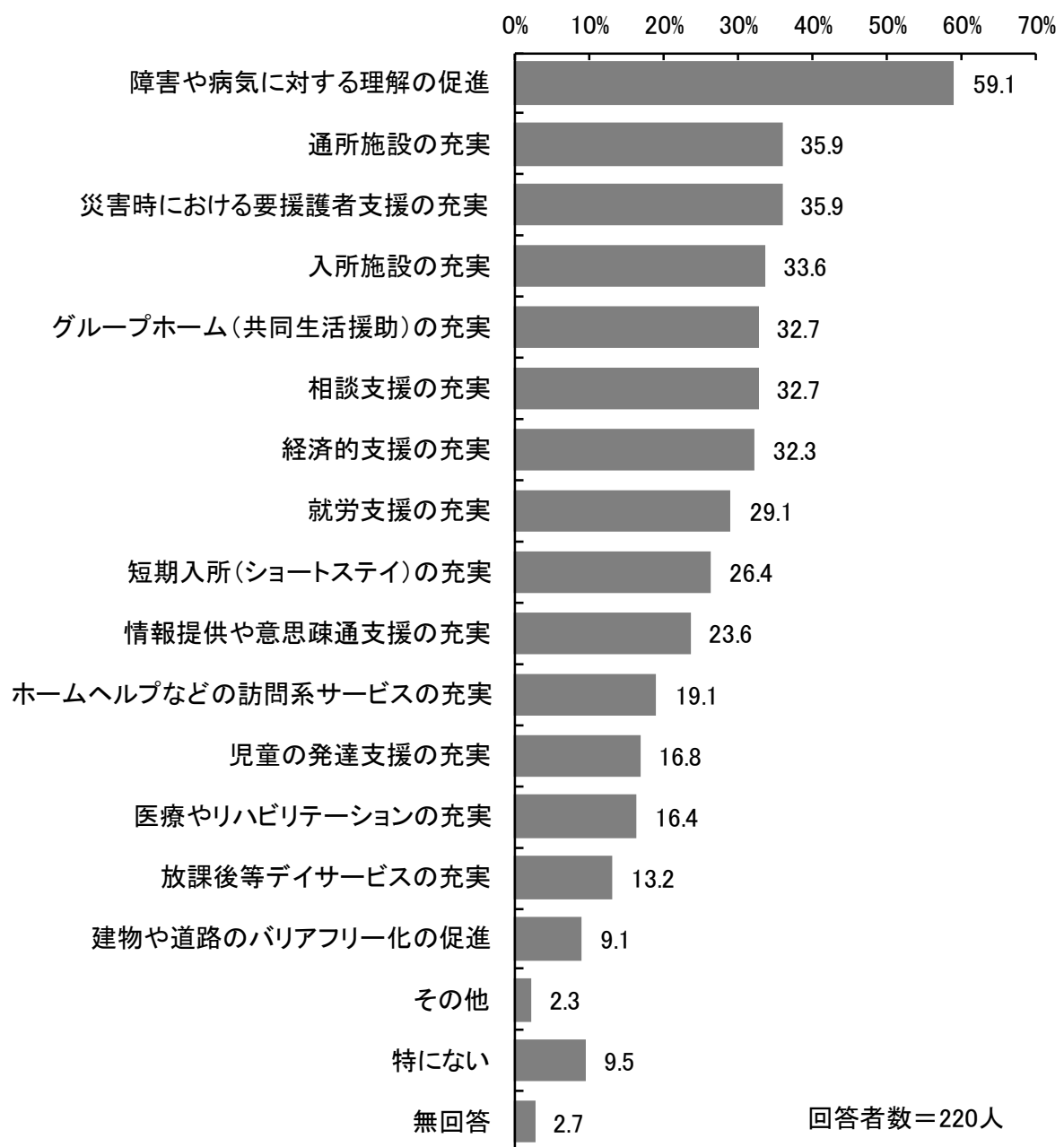
(2) 地域で安心して暮らしていくために重要なこと

問 34 地域で安心して暮らしていくためには、どのようなことが重要だと思いますか。

(○はあてはまるものすべて)

地域で安心して暮らしていくために重要なことは、「障害や病気に対する理解の促進」が59.1%で最も高く、次いで「通所施設の充実」「災害時における要援護者支援の充実」がともに35.9%、「入所施設の充実」が33.6%となっている。

図表 II-58 地域で安心して暮らしていくために重要なこと



障害の程度別にみると、障害程度が重度なほど「災害時における要援護者支援の充実」「入所施設の充実」「短期入所(ショートステイ)の充実」「建物や道路のバリアフリー化の促進」の割合が高くなっている。年代別にみると、就学期(5~17歳)では「障害や病気に対する理解の促進」「通所施設の充実」「相談支援の充実」「就労支援の充実」「児童の発達支援の充実」の割合が5割を超え高くなっている。

図表 II-59 地域で安心して暮らしていくために重要なこと(障害の程度別/年代別)

		回答者数 人	障害や病気に対する理解の促進	通所施設の充実	災害時における要援護者支援の充実	入所施設の充実	グループホーム 共同生活援助の充実	相談支援の充実	経済的支援の充実	就労支援の充実	短期入所 ショート ステイの充実
全体		220	59.1	35.9	35.9	33.6	32.7	32.7	32.3	29.1	26.4
障害の程度別	1度	6	66.7	50.0	50.0	83.3	16.7	50.0	16.7	0.0	50.0
	2度	56	67.9	57.1	42.9	55.4	30.4	30.4	25.0	14.3	33.9
	3度	51	64.7	45.1	35.3	39.2	47.1	37.3	29.4	29.4	27.5
	4度	101	51.5	18.8	31.7	15.8	27.7	30.7	37.6	39.6	19.8
年代別	幼児期(0~4歳)	2	100.0	100.0	50.0	100.0	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0
	就学期(5~17歳)	47	72.3	55.3	42.6	29.8	31.9	53.2	48.9	57.4	42.6
	青年期(18~39歳)	91	60.4	30.8	34.1	30.8	37.4	28.6	30.8	28.6	22.0
	壮年期(40~64歳)	53	54.7	30.2	37.7	39.6	30.2	32.1	26.4	15.1	20.8
	高齢期(65歳以上)	9	44.4	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	22.2

		回答者数 人	情報提供や意思疎通支援の充実	ホームヘルプなどの訪問系サービスの充実	児童の発達支援の充実	医療やリハビリテーションの充実	放課後等デイサービスの充実	建物や道路のバリアフリー化の促進	その他	特になし	無回答
全体		220	23.6	19.1	16.8	16.4	13.2	9.1	2.3	9.5	2.7
障害の程度別	1度	6	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	2度	56	26.8	23.2	7.1	21.4	10.7	10.7	1.8	1.8	3.6
	3度	51	19.6	25.5	19.6	21.6	19.6	7.8	3.9	2.0	5.9
	4度	101	24.8	12.9	22.8	10.9	12.9	6.9	2.0	17.8	1.0
年代別	幼児期(0~4歳)	2	50.0	50.0	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	就学期(5~17歳)	47	46.8	21.3	51.1	25.5	48.9	14.9	6.4	6.4	0.0
	青年期(18~39歳)	91	20.9	18.7	9.9	18.7	4.4	7.7	1.1	12.1	3.3
	壮年期(40~64歳)	53	13.2	17.0	3.8	7.5	0.0	3.8	0.0	9.4	1.9
	高齢期(65歳以上)	9	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0

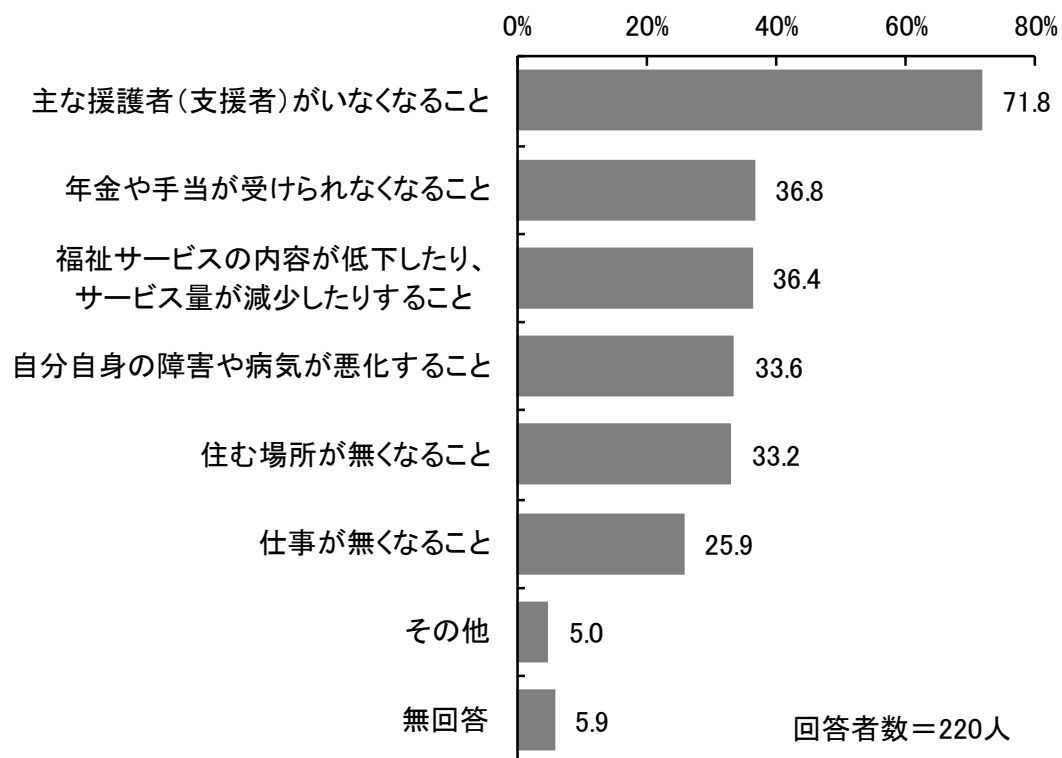
単位：%

(3) 将来不安なこと

問 35 将来、不安なことは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

将来不安なことは、「主な援護者（支援者）がいなくなること」が71.8%で最も高く、次いで「年金や手当が受けられなくなること」36.8%、「福祉サービスの内容が低下したり、サービス量が減少したりすること」36.4%となっている。

図表 II-60 将来不安なこと



障害の程度別にみると、すべての障害程度で「主な援護者（支援者）がいなくなること」が第1位となっている。

年代別にみると、高齢期（65歳以上）以外のすべての年代で「主な援護者（支援者）がいなくなること」が第1位で、年代が低くなるほど割合が高くなる傾向がある。青年期（18～39歳）では「住む場所がなくなること」の割合が高くなっている。

図表 II-6 1 将来不安なこと（障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	主な援護者 支援者 がいなくなる こと	年金や手当 が受けられ なくなる こと	福祉サー ビスの 内容が 低下し たり サー ビス 量が 減少 した りす ること	自分自身 の障害 や病気 が悪化 する こと	住む場所 がなくな ること	仕事が無 くなる こと	その他	無回答
全体		220	71.8	36.8	36.4	33.6	33.2	25.9	5.0	5.9
障害の 程度別	1度	6	66.7	16.7	50.0	66.7	50.0	0.0	0.0	0.0
	2度	56	82.1	37.5	50.0	33.9	30.4	5.4	3.6	7.1
	3度	51	72.5	37.3	37.3	43.1	33.3	19.6	5.9	5.9
	4度	101	66.3	34.7	26.7	26.7	31.7	41.6	5.9	5.9
年代別	幼児期（0～4歳）	2	100.0	100.0	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	就学期（5～17歳）	47	80.9	34.0	36.2	36.2	29.8	25.5	10.6	0.0
	青年期（18～39歳）	91	80.2	40.7	38.5	30.8	41.8	34.1	4.4	3.3
	壮年期（40～64歳）	53	69.8	28.3	26.4	39.6	24.5	20.8	3.8	7.5
	高齢期（65歳以上）	9	33.3	44.4	66.7	66.7	11.1	0.0	0.0	0.0

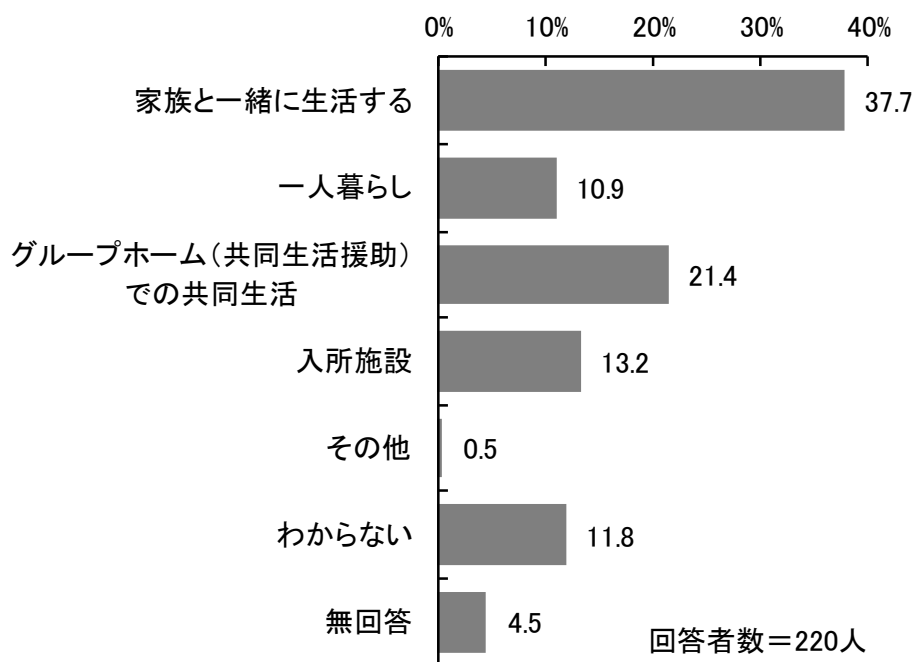
単位：％

(4) 将来望む暮らし方

問 36 将来はどのような暮らし方を望んでいますか。(〇は1つだけ)

将来望む暮らし方は、「家族と一緒に生活する」が37.7%で最も高くなっている。次いで「グループホーム（共同生活援助）での共同生活」21.4%、「入所施設」13.2%となっている。

図表 II-6 2 将来望む暮らし方



障害の程度別にみると、障害程度が重度なほど「入所施設」の割合が高くなっている。
 年代別にみると、壮年期（40～64歳）で「グループホーム（共同生活援助）での共同生活」が34.0%と、他の年代より高くなっている。

図表 II-6 3 将来望む暮らし方（障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	家族と一緒に生活する	一人暮らし	グループホーム 共同生活 援助での共同生活	入所施設	その他	わからない	無回答
全体		220	37.7	10.9	21.4	13.2	0.5	11.8	4.5
障害の程度別	1度	6	33.3	0.0	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0
	2度	56	33.9	3.6	17.9	30.4	0.0	8.9	5.4
	3度	51	35.3	3.9	31.4	9.8	2.0	11.8	5.9
	4度	101	40.6	19.8	18.8	3.0	0.0	13.9	4.0
年代別	幼児期（0～4歳）	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	就学期（5～17歳）	47	44.7	14.9	8.5	6.4	0.0	23.4	2.1
	青年期（18～39歳）	91	44.0	8.8	22.0	11.0	0.0	11.0	3.3
	壮年期（40～64歳）	53	22.6	11.3	34.0	22.6	0.0	7.5	1.9
	高齢期（65歳以上）	9	44.4	11.1	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0

単位：%

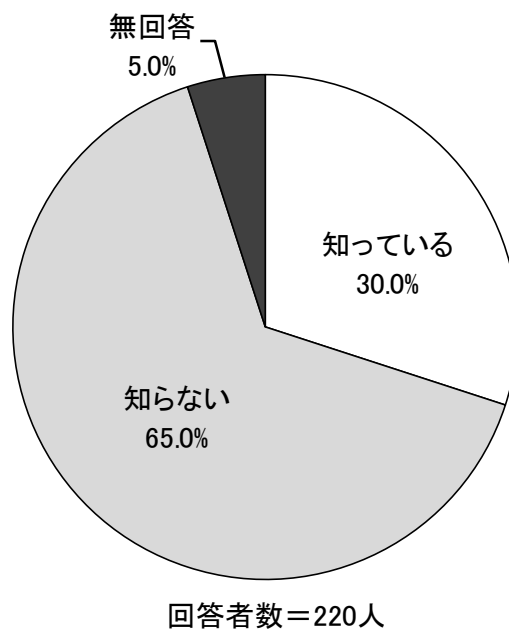
13. 虐待防止、差別解消について

(1) 区の虐待対応窓口の認知

問37 養護者や通所先の施設職員、勤め先の職員などから虐待を受けた場合に、区役所に対応窓口があることを知っていますか。(○は1つだけ)

区の虐待対応窓口の認知は、「知っている」が30.0%、「知らない」が65.0%となっている。

図表 II-6 4 区の虐待対応窓口の認知



年代別にみると、青年期（18～39歳）では「知らない」が75.8%と他の年代より高くなっている。

図表 II-65 区の虐待対応窓口の認知（障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	知っている	知らない	無回答
全体		220	30.0	65.0	5.0
障害の程度別	1度	6	33.3	66.7	0.0
	2度	56	32.1	62.5	5.4
	3度	51	33.3	62.7	3.9
	4度	101	27.7	67.3	5.0
年代別	幼児期（0～4歳）	2	50.0	50.0	0.0
	就学期（5～17歳）	47	46.8	48.9	4.3
	青年期（18～39歳）	91	18.7	75.8	5.5
	壮年期（40～64歳）	53	35.8	60.4	3.8
	高齢期（65歳以上）	9	22.2	55.6	22.2

単位：%

(2) 障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無

問 38 過去1年間に、障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことはありましたか。(○は1つだけ)

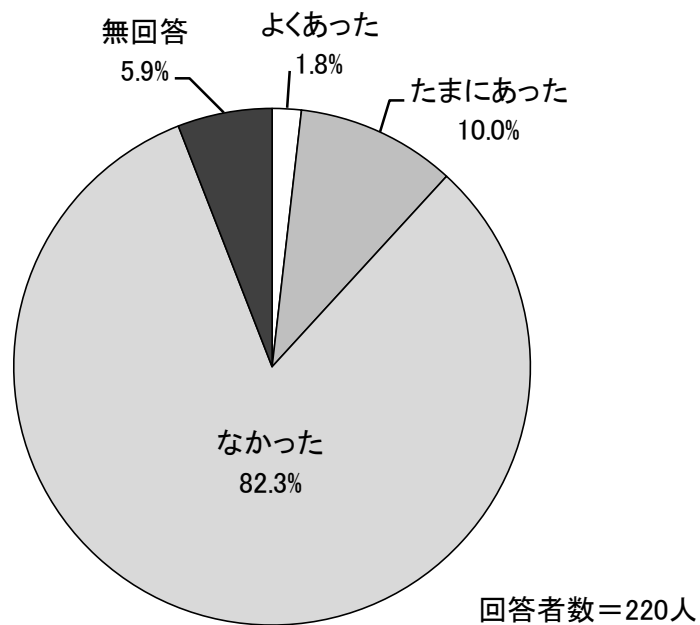
★ 問38-①は、問38で「1.よくあった」「2.たまにあった」のいずれかに○をした方

問38-① それは具体的にどのようなことでしたか。

過去1年間に、障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無は、「たまにあった」が10.0%、「よくあった」が1.8%となっている。

一方、「なかった」は82.3%である。

図表 II-6 6 障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無



障害の程度別にみると、4度では『あった』（「よくあった」+「たまにあった」）が17.9%と、他の障害の程度より高くなっている。

図表 II-67 障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じたことの有無
（障害の程度別/年代別）

		回答者数 人	よくあった	たまにあった	なかった	無回答	『あった』
全体		220	1.8	10.0	82.3	5.9	11.8
障害の程度別	1度	6	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	2度	56	0.0	10.7	82.1	7.1	10.7
	3度	51	2.0	2.0	92.2	3.9	4.0
	4度	101	3.0	14.9	76.2	5.9	17.9
年代別	幼児期（0～4歳）	2	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0
	就学期（5～17歳）	47	0.0	10.6	85.1	4.3	10.6
	青年期（18～39歳）	91	2.2	8.8	82.4	6.6	11.0
	壮年期（40～64歳）	53	1.9	11.3	81.1	5.7	13.2
	高齢期（65歳以上）	9	0.0	0.0	77.8	22.2	0.0

単位：%

『あった』＝「よくあった」+「たまにあった」

以下は、『障害や病気を理由として不当に差別を受けたと感じた』具体的内容(総数 26 件)の抜粋である。原文を基に一部要約し掲載している。

①いじめ・いやがらせ(7件)

- 知人にお金をせびられた(障害を持っていて断るのが苦手なのを承知で頼まれた)。
- 暴言があった(バカ、給料泥棒、遅い、邪魔などと言われた)。

②医療機関において(4件)

- 病院で受診の際の理解不足。
- 入院中なので、患者さんや看護師さんから悪口を言われたと感じたり、トラブルになったり。

③学校、デイサービスにおいて(4件)

- 放課後等デイサービスで軽度の子は利用できるのに、自分の子どもは手がかかることを理由に、時間短縮や休んでほしいと頼まれることが多々ある。契約の曜日もずっと利用を断られている。
- 支援級のある小学校に通っているが、普通級の子や保護者に心ない言葉をかけられることもある。大半は理解してくれていると思うが、コロナもあり関わりが減っていることも原因かもしれない。

④周囲の無理解(3件)

- バスに乗るときにスロープを出してくれないこと。
- お店の注文の時に通じない。
- 周りの知らない人に差別的な対応をされる。大声や多動があることを怒られた。マスクができないがマスクを強制された。幼稚園の入園を断られた。

⑤職場において(3件)

- 「足手まといだ」と言われた。
- 就職後、障害を理由に差別をずっと 10 年間受けてきた。病気になり離職したが、言葉の暴力から始まり、20 連勤、150 時間労働そのうえ殴られ蹴られ、心身ともに病んでいた。

⑥施設において(2件)

- コロナのため自宅で自粛中に園からの手紙が、提出期限間近や提出期限が過ぎて届くなどした。予防接種の連絡が来なかった。通所させたくても信用できず、未だに通所させていない。

⑦その他(3件)

- 当初の説明とは違うところがあっても、本人には理解できないし訴えることができないので、後で別のところから話を聞き、何があったかを知ることが続いた。

(3) 生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無

問 39 過去1年間に、日常生活や社会生活を送るうえで、生活しづらい原因を取り除いてもらったことはありましたか。(○は1つだけ)

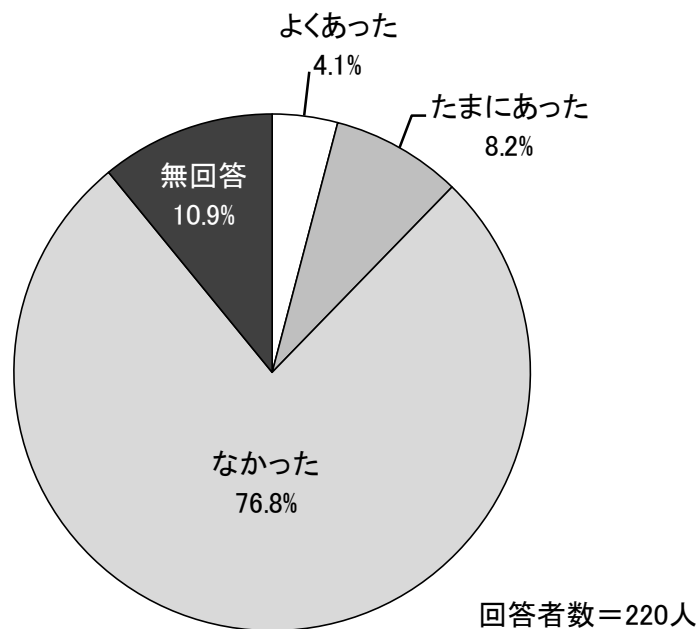
★ 問 39-①は、問 39「1.よくあった」「2.たまにあった」のいずれかに○をした方

問 39-① それは具体的にどのようなことでしたか。

生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無は、「たまにあった」が8.2%、「よくあった」が4.1%となっている。

一方、「なかった」は76.8%で約7割を占めている。

図表 II-68 生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無



障害の程度別にみると、2度では『あった』（「よくあった」+「たまにあった」）が17.8%と、他の障害の程度より高くなっている。

図表 II-69 生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じたことの有無
(障害の程度別/年代別)

		回答者数 人	よくあ った	たまにあ った	なか た	無回 答	『あ った』
全 体		220	4.1	8.2	76.8	10.9	12.3
障 害 の 程 度 別	1 度	6	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	2 度	56	8.9	8.9	62.5	19.6	17.8
	3 度	51	2.0	9.8	78.4	9.8	11.8
	4 度	101	2.0	6.9	84.2	6.9	8.9
年 代 別	幼児期（0～4 歳）	2	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	就学期（5～17 歳）	47	8.5	6.4	74.5	10.6	14.9
	青年期（18～39 歳）	91	2.2	7.7	81.3	8.8	9.9
	壮年期（40～64 歳）	53	0.0	13.2	71.7	15.1	13.2
	高齢期（65 歳以上）	9	0.0	0.0	77.8	22.2	0.0

単位：%

『あった』＝「よくあった」+「たまにあった」

以下は、『生活しづらい原因を取り除いてもらったと感じた』具体的内容（総数 18 件）の抜粋である。原文を基に一部要約し掲載している。

①学校、施設の支援(9件)

- 利用している通所施設やヘルパーさんなどにいろいろ助けてもらっている。
- 母親の入院等で、通所先のお迎えの時間を遅くしてもらった。
- 学習など個別で指導してくれる放課後等デイサービスに入り、理解できていない箇所、その段階的な支援の仕方などを相談でき助かっている。本人の理解も進んできた。葛飾区内では、学習支援を行うデイが少ないので、今後増えてくれればいいと思う。

②周囲の理解・サポート(3件)

- 年齢的に「児童」「成人」の境で初めてのことも多々あり、それが当たり前なのか？ということがわからなかったが、親切に丁寧に聞いて教えていただいたりして協力していただくことがあった。
- 生活しづらい原因を取り除くというよりも、生活しやすいように日常的に社会的場面でも視覚的に、本人がわかりやすいように絵やメモ（筆談）でコミュニケーションをしたり、前もって見通しが持てるように授業内容を家庭に伝えてもらい、先生や親が、本人が読み取れる形での手順を作成した。また、常用している限定的な食べ物しか口にしないので、無理に促したりしないようにしてもらっている。

③移動支援(2件)

- 移動支援が通所先や学校への送迎に利用できるようになったことはとてもありがたい。

④仕事のやり方のサポート(1件)

- 仕事上のこと、このやり方はまずいとか。

⑤その他(3件)

- フロアホッケーなど障害団体の活動に参加し、集団行動などが身についた。
- 内科と歯科の訪問診療をお願いできた。多動であるため、また親が高齢になり、病院は遠くより地元にと思い変えることにした。

14. 自由意見

最後に、区の福祉施策などについて、ご意見やご要望をお願いします。

以下は、区の福祉施策などについてのご意見やご要望（総数 67 件）の抜粋である。原文を基に一部要約し掲載している。

①施設の充実について(12件)

- 親が病気になった時、障害の重い子も預かってもらえるところを作ってもらいたい。
- グループホームなどの施設の充実。
- 重度重複障害者の入所施設の不足を感じる。医療的ケアもできる入所施設があればと思う。
- どんなに重い障害があっても、地域で暮らせることをお願いしたい。区内の入所施設が少ないため、ほかの場所へ行く方がまだまだ多い。どんな生活をしているかも情報は全くない。
- 入院中だがもっと本人に合わせた施設が増えれば、退院することが可能になると思う。本人はまだ若いので、なるべく早く退院して生活が出来る支援をしていただけると助かる。

②支援の充実について(11件)

- 私は視覚障害なので、音声の信号機をもっと増やしてほしい。
- 障害者本人がなんでも相談できるようにしてほしいと思う。軽度の障害だから大丈夫と思わず、一緒に考え、適切な指導、意見を受けることができることを望んでいる。
- 放課後等デイサービスに通っているが、学校への迎えがないため働きに出ることが難しい。本当に必要な家庭から保育園のように優先順位の点数化等をしてほしい。少なくとも、療育手帳を持っている子どもを優先してほしい。障害のため小学校入学も2月まで就学先が決定しない等あったので、インクルーシブ教育を推進してほしい。

③将来の不安について(8件)

- 親の亡き後、子どもの生活、お金の管理、本人が満足した環境で過ごせるように。将来へのイメージが希望を持てるような情報の提案をいただけると嬉しい。

④施設職員について(5件)

- ヘルパーが不足していてなかなか希望している時間をお願いすることが難しい。人材育成にも力を入れていただけるとありがたい。

⑤福祉施策について(5件)

- 障害を持った人が自立して一人で生活する際に、どのような生活をしていきたいのか、希望することは何かきちんと障害者本人の気持ちや状況を考慮したうえで、相談に乗ってほしい。

⑥情報の周知について(5件)

- こちらから聞かないと何も教えてくれない。全く知らないことばかりだ。親がいなくなったらどう生きていけばいいかわからない。
- 区役所でどのようなことが、どこで相談できるのか、障害のある方にもわかるような方法で情報を周知してほしい。障害の種類に見合った情報を見られるように広報みたいな方法で区の施設などにも置き、気軽に見られるような環境があってもいいと思う。

⑦感謝(4件)

- 区の福祉施策のおかげで平穏な暮らしができ、感謝の気持ちで生きている。

⑧就労支援について(3件)

- 重度の障害者への就労方法の改善、見直し。
- 働きたくても働けない障害者がたくさんいると思う。トラウマから家族以外の人を信じられない。就労支援センターでさえ通えない。障害者が安心して働ける場所を増やしてほしい。

⑨周囲の理解・サポートについて(3件)

- たくさん、周りの理解が得られるようになってほしい。
- 福祉の内容を知らない人がたくさんいるので、身近に内容に詳しい人がいればもう少し楽になるのでは。

⑩アンケートについて(3件)

- 過去1年間にという括りがあるために、答えられない部分が多くあった。
- 本人は考えること、字を書くことはできませんのでよくわからないことがあった。
- 無作為で送付にしてもせめて15歳、18歳以上などの方に送った方がよいのでは。小学生の愛の手帳を持っている保護者向けの質問内容にするとか、分けた方がよいと思う。

⑪経済的支援について(2件)

- 福祉でも毎月少ないお金なので大変。

⑫その他(6件)

- いつも人が変わる。名前を覚えると変わっている。
- 今はインターネットやホームページの時代ですが、うちみたいに持っていない人たちもいると思う。そういう人たちのためにもプリント類は残しておいてほしい。